

- 基本計画の名称：高岡市中心市街地活性化基本計画
- 作成主体：富山県高岡市
- 計画期間：令和4年4月～令和9年3月（計画期間5年0月）

1. 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

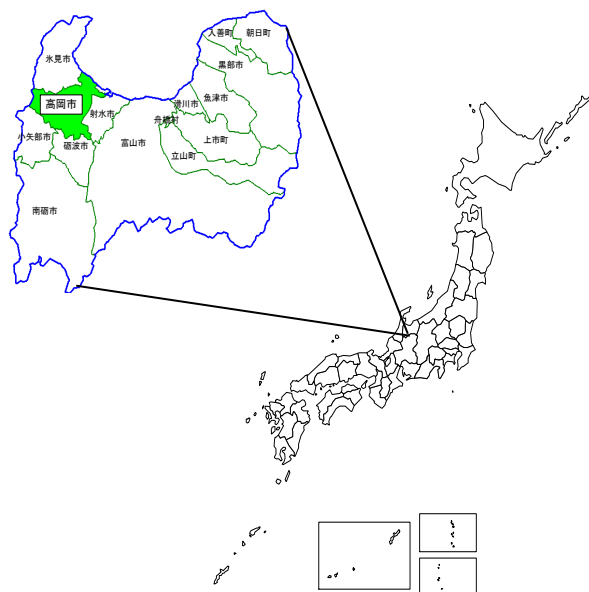
〔1〕高岡市の概要

高岡市は、富山県北西部に位置し、人口約17万人を有する県内第2の都市である。平成27年3月に北陸新幹線が開業し東京と最短で2時間19分で結ばれたほか、鉄道では、あいの風とやま鉄道線、J R城端線・氷見線及び路面電車万葉線が、道路網では、西部に能越自動車道の3つのIC、南部に北陸自動車道のスマートICがあり、北陸の大動脈である国道8号と156号、160号が交わる交通結節点に位置し、通勤・通学、商業など県西部の中核的な都市である。

奈良時代には越中国府が置かれ、天平18年には奈良時代の代表的歌人である大伴家持が国守として当地に赴任し、在任5年の間に二上山や雨晴海岸（国名勝「おくのほそ道の風景地―有磯海―」）などの風光明媚を愛でて詠んだ220首余りの秀歌を万葉集に残している。

近世に入って加賀前田家2代当主前田利長が関野ヶ原（現在の高岡台地）に築城し、城下町として現在の高岡市の基礎が築かれることとなった。一国一城令により高岡城は廃城となったが、3代当主前田利常が商工業振興策を進め、武家のまちから商工業を中心とする町人のまちとして発展し、銅器、漆器、仏壇、仏具などの伝統産業を生み出した。また、ユネスコ無形文化遺産に登録された国の重要有形・無形民俗文化財である高岡御車山祭をはじめ、県内唯一の国宝である瑞龍寺、勝興寺、氣多神社、菅野家・武田家・佐伯家住宅など数多くの重要文化財、前田利長墓所・高岡城跡（国指定史跡）、高岡鋳物の製作用具及び製品（登録有形民俗文化財）、山町筋・金屋町・吉久（重要伝統的建造物群保存地区）など県内でも有数の歴史的・文化的資産が集積している。

明治以降は伏木港の発展とともに重化学工業、木材・紙・パルプなどの工業集積が形成され、戦後になると伝統的な高岡の金属工業はアルミ産業へと発展し、全国有数の一大産地を形成したほか、近年は伝統産業の技法を活かした日用工芸品「クラフト」が全国的な注目を集めるなど、高岡市は日本海側有数の産業都市として発展し、現在に至っている。



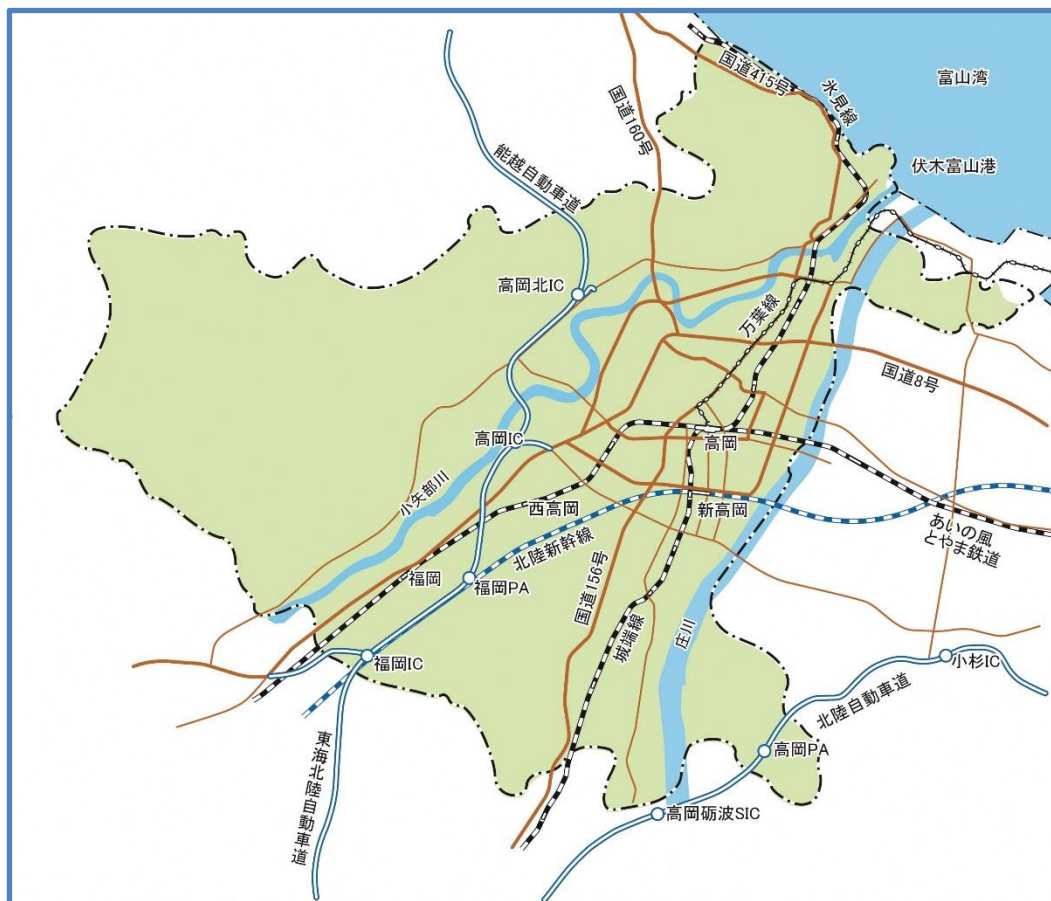
〔2〕高岡市中心市街地の状況

（1）位置

高岡市の中心市街地は、高岡駅を中心とする一帯の市街地である。

歴史・文化を受け継ぐとともに産業、行政の様々な都市機能を担い、まさに「高岡の顔」として発展してきた地域である。

位 置 図



（2）中心市街地の特徴と有効活用の方法の検討

①歴史・文化資産

高岡市の中心市街地は、慶長14年（1609）、加賀前田家2代当主前田利長の隠居場所として高岡城が築城され、城下町として町建てられたところに起源をもつ。城に続く台地上に馬場や武家屋敷が置かれ、台地下には商人町が配置されるとともに、千保川沿いに開かれた金屋町では招致された鋳物師による職人町が形成され、高岡市の原形が形づくられることとなった。本市中心市街地は、いわば近世高岡発祥の地、高岡市の原点としての性格を有している。

このように、近世における町の発展が明治以降も続き、商工業の発達とともに近代から現在に至る町並みが形成されてきた。

また、戦災の影響がなかったことから、現在でも中心市街地には、瑞龍寺（国宝）、山町筋・金屋町（重要伝統的建造物群保存地区）、高岡城跡[高岡古城公園]（国指定史跡）や高岡御車山祭（ユネスコ無形文化遺産、重要有形・無形民俗文化財）といった伝統行事など数多くの歴史・文化資産が集積しており、富山県内では他に類を見ない状況である。

国指定文化財・国登録有形文化財等の状況

	国宝	重要文化財	重要伝統的建造物群保存地区	登録有形（民俗）文化財
中心市街地内	1	9	2	13
その他高岡市内	0	13	1	27
高岡市 合計（県内順位）	1（1）	22（2）	3（1）	40（1）
富山県 合計	1	109	5	144
中心市街地／高岡市	100%	40.9%	67.0%	32.5%
中心市街地／富山県	100%	8.3%	40.0%	9.0%

出典：富山県文化財・文化施設等一覧（令和3年3月15日現在）

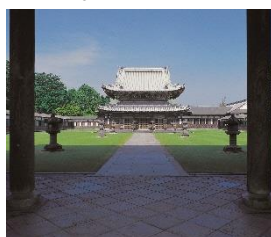
中心市街地における歴史・文化資産の分布状況



これらの歴史・文化資産は、中心市街地内の主要観光拠点として、年間約 120 万人の観光客が訪れ、高岡市における観光交流拠点として重要な役割を担っている。

これらの歴史・文化資産を磨き、魅力高めるとともに、まちなかを回遊する取組みを進める必要がある。

とりわけ、平成 23 年に国の認定を受けた高岡市歴史的風致維持向上計画、平成 27 年に日本遺産の認定を受けた物語「加賀前田家ゆかりの町民文化が花咲くまち高岡 - 人、技、心 -」（平成 30 年に追加認定を受けた物語「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」）及び平成 28 年に登録された「ユネスコ無形文化遺産」の取組みと一体となった、中心市街地活性化の取組みが重要である。



瑞龍寺
〔国宝 3 棟、重要文化財 7 棟他〕



高岡御車山祭
〔重要有形・無形民俗文化財〕



高岡城跡（高岡古城公園）
〔国指定史跡〕

②社会資本など

高岡市は非戦災都市であることから、前述した歴史・文化資産のみならず、字名や条里など、中心市街地には開町時の町建ての雰囲気の色濃く残っている。

中心市街地においては都市基盤の充実を図るため、様々な社会資本の整備に取り組んできた。特に、市立博物館、市民体育館の設置をはじめ、ウイング・ウイング高岡（市立中央図書館、生涯学習センターなどが入居）などに代表される再開発事業を行い、多くの公共・公益施設が集積する拠点としての性格を確立するに至っている。

また、市全体の発展に伴って高岡駅北側の末広町、御旅屋通り、末広坂等の商店街が形成され、長年にわたり中心的な商店街として位置づけられており、そのクロスポイントには、複合商業施設「御旅屋セリオ」が立地している。

また、公共交通の拠点として、高岡駅（あいの風とやま鉄道線、ＪＲ城端線・氷見線、万葉線）、バスターミナルが立地するとともに、平成 23 年 8 月に高岡駅の橋上駅舎化、南北自由通路〔通称：万葉ロード〕が供用開始されたことによって、鉄道によって分断されていた駅南北が地上で連結されることとなった。さらに、平成 26 年 3 月に交通広場、北口駅前広場、新しいステーションビル（クルン高岡）等が供用開始されたことにより拠点機能が一層高まり、市民のみならず周辺都市をも含めた人の流れが活発化し、中心市街地が交流拠点として富山県西部地域全体の発展に寄与することが期待されている。

近年では、高岡駅を含む周辺一帯の高岡駅前東地区を中心に、集合住宅やホテル開発、銀行本店の移転などの建設が相次いでおり、民間開発の動きが活発化している。

このような都市基盤と多様な都市機能が集積し、ストックされてきた中心市街地において、これらの既存ストックを活かしつつ、中心商店街と連携を図り、また、まちづくり会社や街づくり協議会といった多様なまちづくり機関の活動を助長しながら様々な施策・事業に取り組むことは、高岡らしい賑わいと活力に溢れたまちなかを創出するものであり、中心市街地の活性化にとって有効な取り組みである。



御旅屋第一街区市街地再開発事業
〔御旅屋セリオ〕



駅前西第一街区市街地再開発事業
〔ウイング・ウイング高岡〕

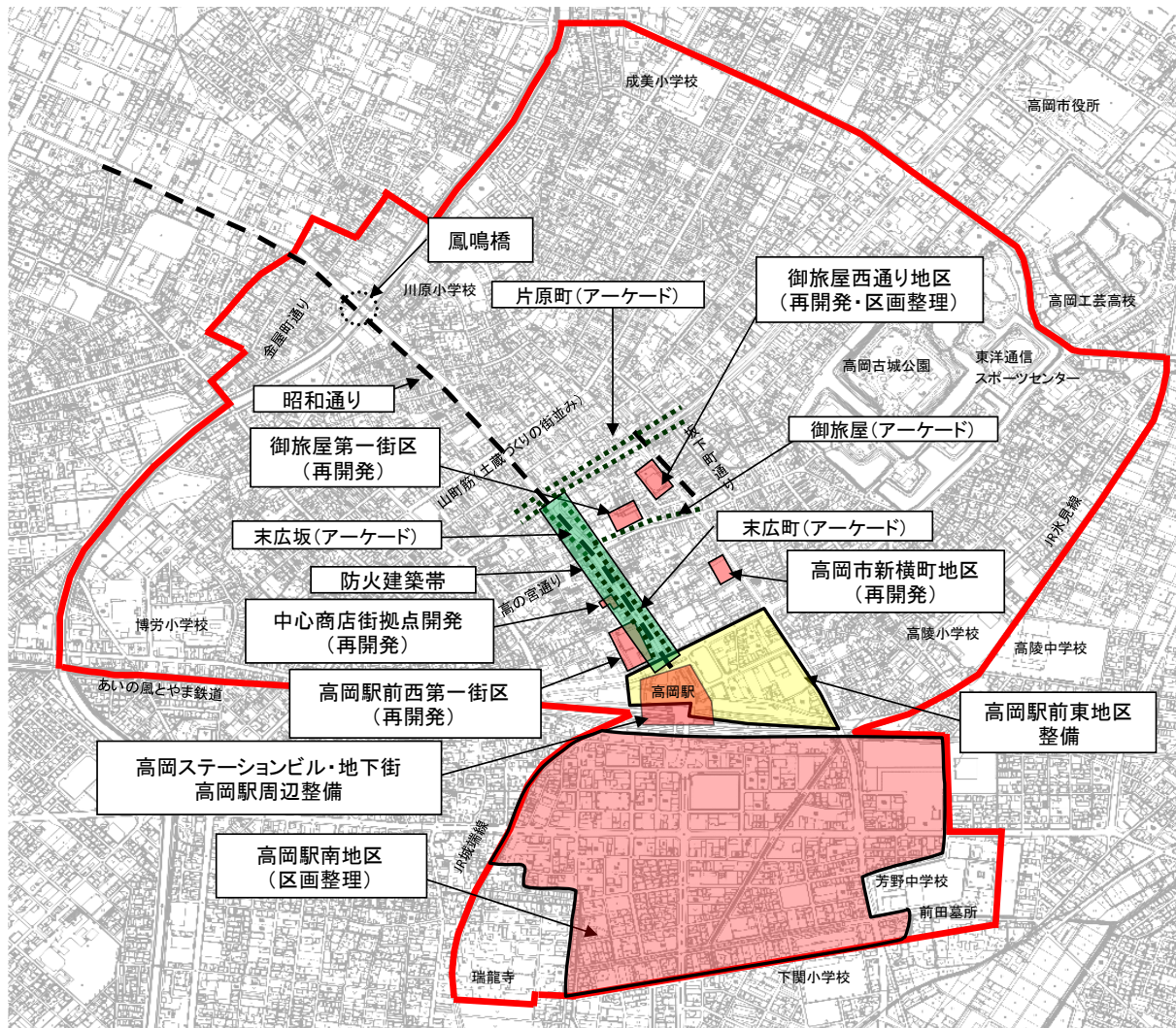


高岡駅南北自由通路
〔通称：万葉ロード〕

高岡駅周辺整備事業



社会資本整備等の分布状況



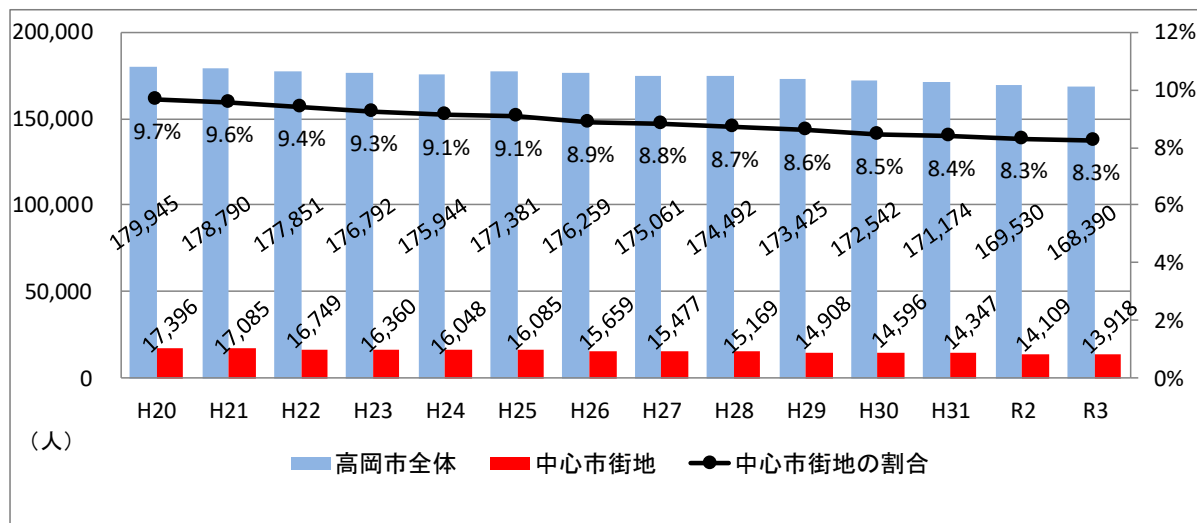
(3) データから見た中心市街地の現状

①人口・世帯数の状況

高岡市全体の人口が減少傾向にある中、中心市街地の人口は、市全体をやや上回るペースで減少が続いており、市全体に占める中心市街地の人口割合は、前計画がスタートした平成 29 年から令和 3 年にかけて、0.3 ポイント低下している。

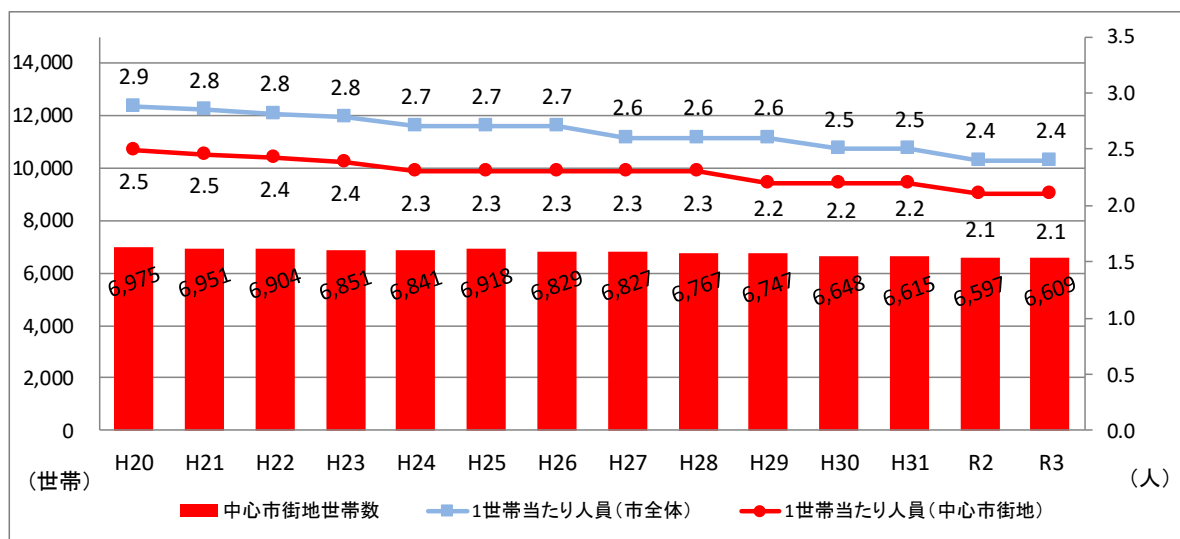
中心市街地の世帯数は、平成 29 年から令和 3 年にかけて、2.0%減少している。一世帯あたりの人員数は、中心市街地、高岡市全体ともに減少していることから、核家族化・単独世帯化の進展が伺える。

中心市街地の人口推移



出典：住民基本台帳（各年 3 月 31 日現在）

中心市街地の世帯推移



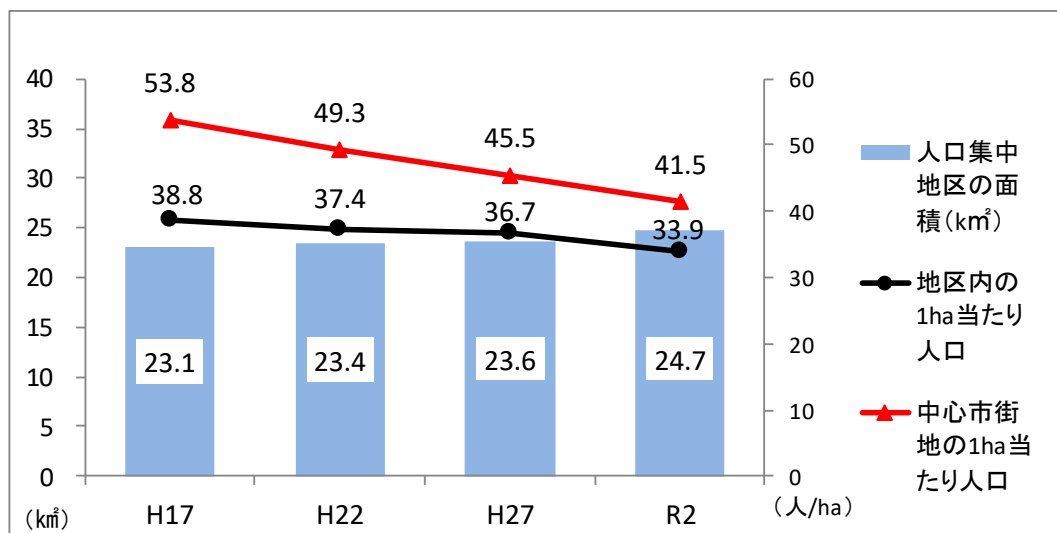
出典：住民基本台帳（各年 3 月 31 日現在）

②人口密度

D I D（人口集中地区）面積は、郊外居住の進展により年々拡大し、令和2年では24.7㎢となった。一方、D I D面積1haあたりの人口密度は、平成27年の36.7人から2.8人減少し、令和2年では33.9人となるなど年々減少傾向にある。

中心市街地の人口密度も、平成27年から令和2年の5年間で4.0ポイント低下しており、人口密度の低下が進んでいる。

高岡市のD I D面積、D I D人口密度、中心市街地の人口密度



出典：住民基本台帳、国勢調査

※住民基本台帳に基づく中心市街地の人口を同エリア面積（340 ha）で除して算定

③住宅の状況

富山県の持ち家比率は76.6%と全国2位（令和2年国勢調査）であり、持ち家志向の強い地域である。また、一人あたりの居住室の畳数も持ち家比率と同様、全国トップクラスで、県民性として「広くて大きな家を持ちたい」という意識が強い傾向にある。

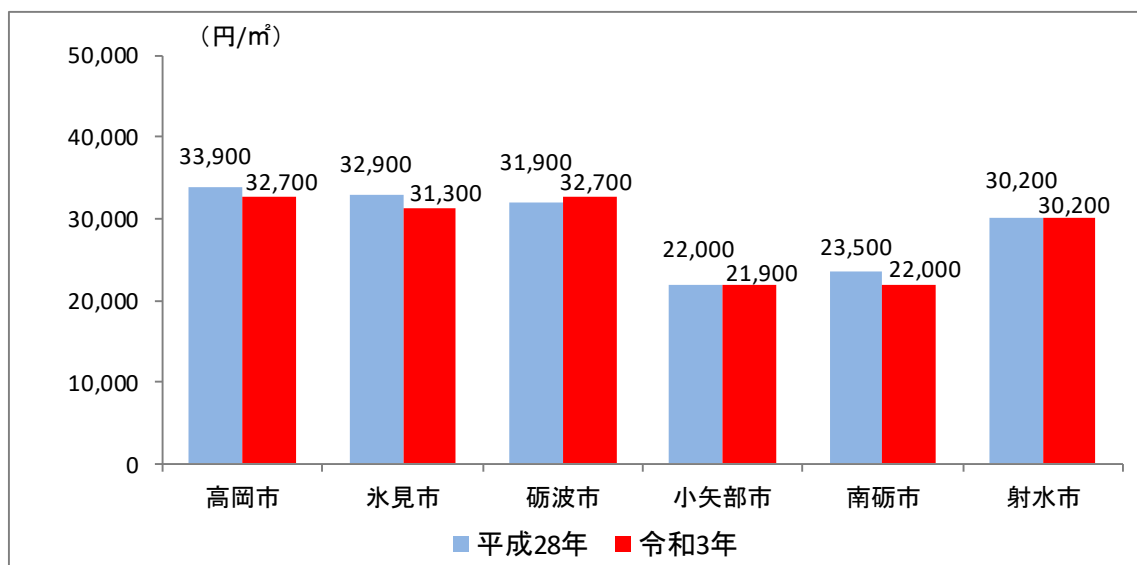
高岡市の1,000世帯当たりの新設住宅戸数は、ここ10年ほど15件を超えることはなかったが、高岡駅前の集合住宅や共同住宅の建設、消費税増税の駆け込み需要等の影響もあり、平成28年で23件、平成30年で17件と大きく伸びた。

富山県内各市における持ち家比率

順位		持ち家比率(%)	順位		持ち家比率(%)
1	氷見市	91.6	7	魚津市	78.1
2	南砺市	88.8	8	砺波市	76.5
3	小矢部市	86.7	9	高岡市	76.3
4	滑川市	83.4	10	富山市	69.7
5	黒部市	82.5		富山県	76.6
6	射水市	79.2			

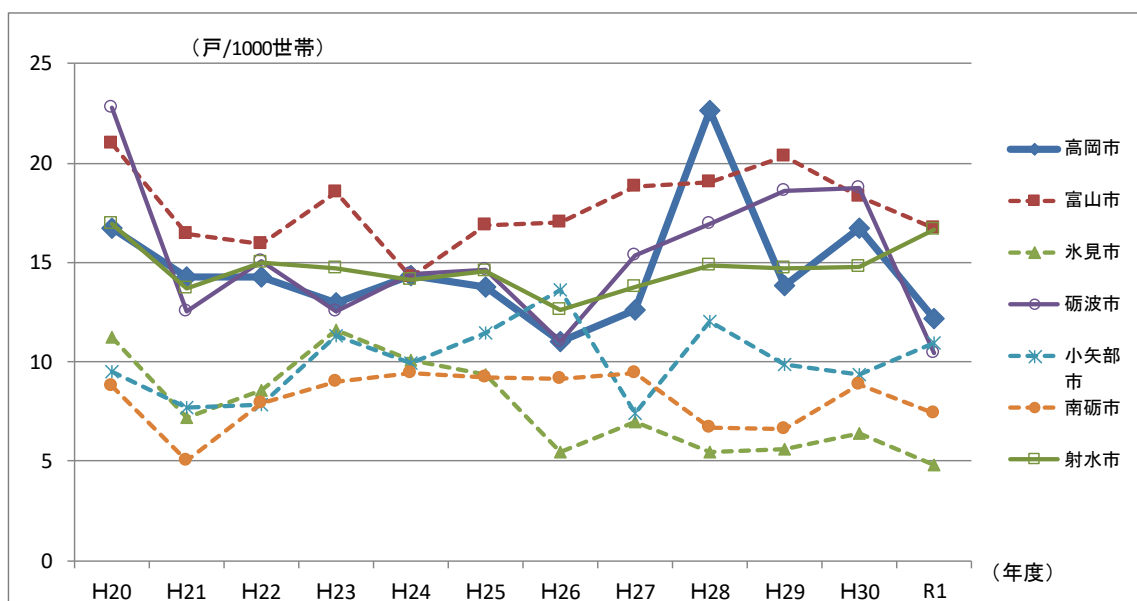
出典：令和2年国勢調査
（網掛けは富山県西部の都市）

富山県西部各市における住宅地平均価格（平成 28 年・令和 3 年）



出典：国土交通省地価公示

1,000 世帯当たり新設住宅戸数の推移

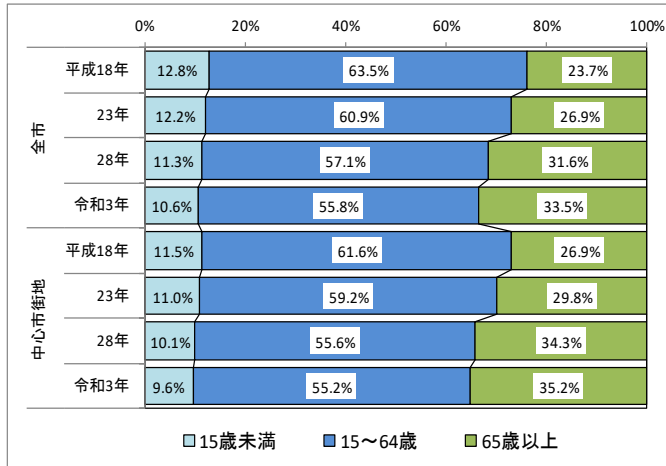


出典：富山県「市町村別新設住宅着工戸数」

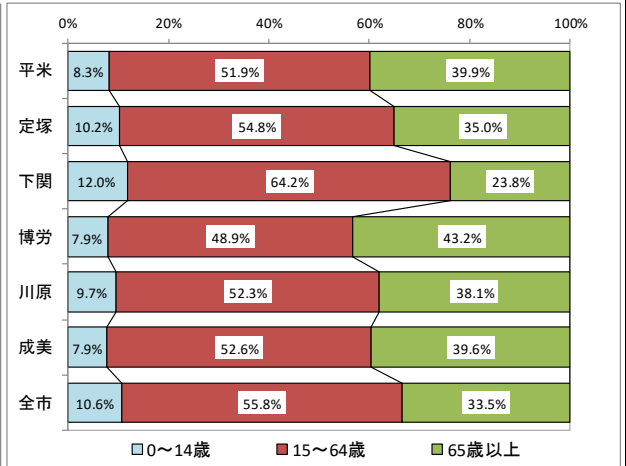
④少子高齢化の状況

年齢 3 区分による変化を見てみると、前回調査（平成 28 年）と比較して、年少人口の割合は、全市、中心市街地ともに低下する一方で、65 歳以上人口の割合は、上昇しており、全市的に少子高齢化が進展している。令和 3 年の調査において、中心市街地の 65 歳以上人口の割合は、ほぼすべての地区で上昇しており、全市の 33.5% よりも 1.7 ポイント高い 35.2% になっている。

年齢3区分による人口構成及び推移



中心市街地内の地区別年齢構成（令和3年）



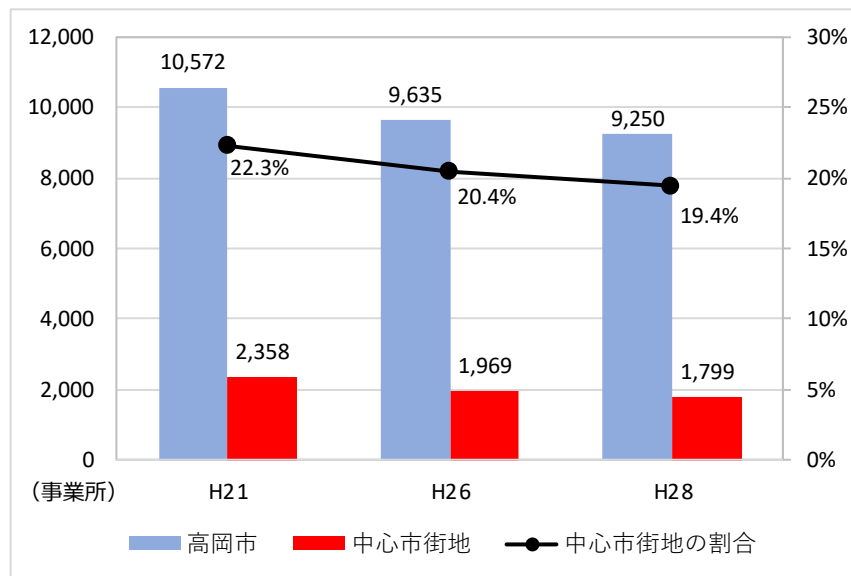
出典：住民基本台帳（各年3月31日現在）

（注）中心市街地（6地区）の割合は、町丁字による年齢別人口を抽出できないことから、中心市街地におおむね含まれる平米、定塚、下関、博労（木津除く）、川原、成美の6地区の人口から算出

⑤事業所・従業者数（全業種）の状況

高岡市同様に中心市街地においても全業種の事業所数、従業者数はともに減少し続けている。全市における中心市街地の割合をみると、全業種の事業所数、従業者数ともに低下しており、中心市街地への集積度が低下している。

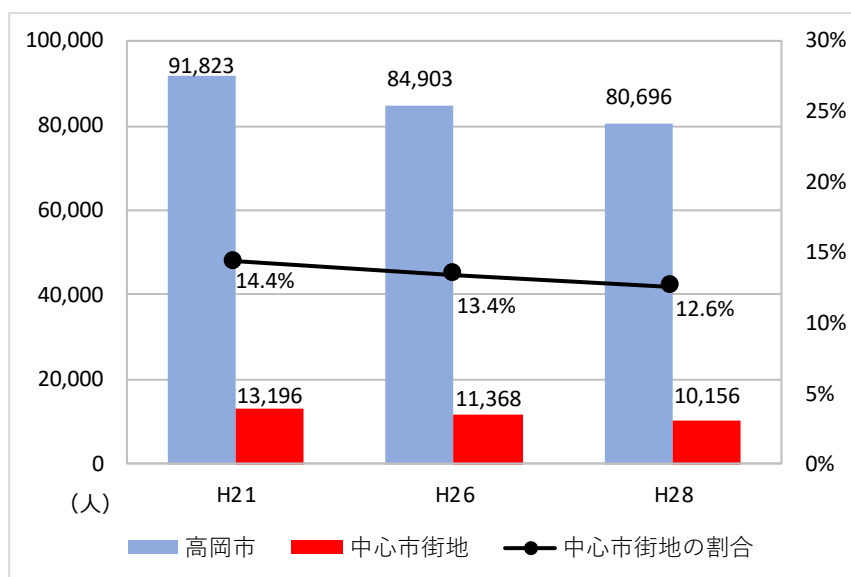
中心市街地における事業所数（全業種）の推移



出典：総務省「経済センサス基礎調査」（平成21年、26年）、総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」（平成28年）

（注）中心市街地の数値は、中心市街地内に属する全町丁の合計

中心市街地における従業者数（全業種）の推移



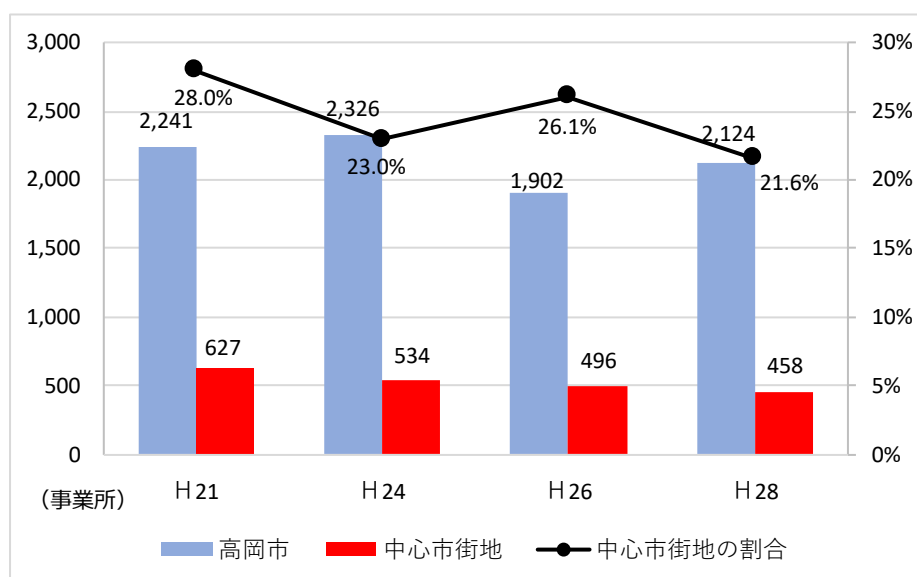
出典：総務省「経済センサス基礎調査」（平成 21 年、26 年）、総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」（平成 28 年）

（注）中心市街地の数値は、中心市街地内に属する全町丁の合計

⑥小売業の状況

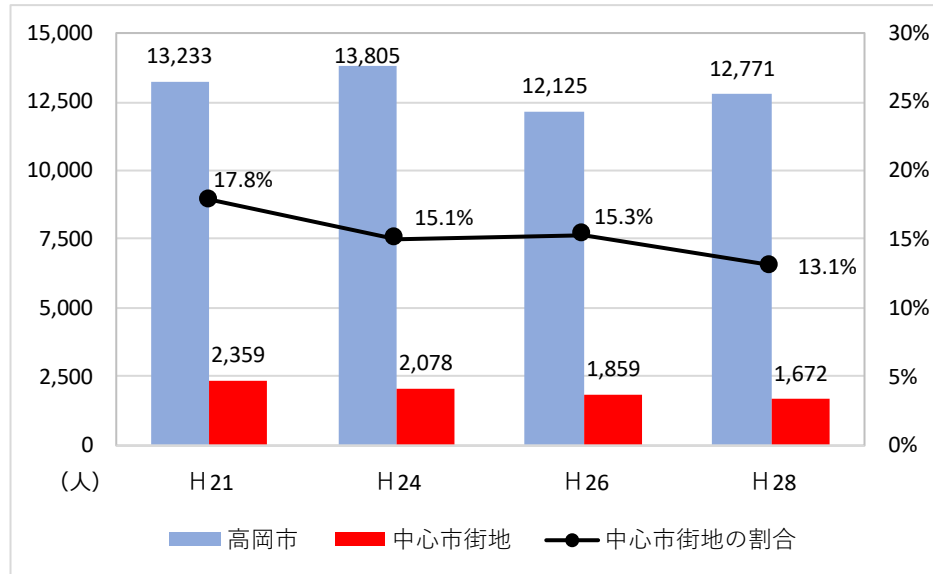
中心市街地における小売業事業所数、従業者数はいずれも減少が続いている。高岡市全体については、平成 26 年から 28 年にかけて、北陸新幹線の開業効果もあり、いずれの数値もやや増加している。そのため、全市における中心市街地の割合をみると、全業種の事業所数、従業者数ともに低下している。

中心市街地における小売業事業所数の推移



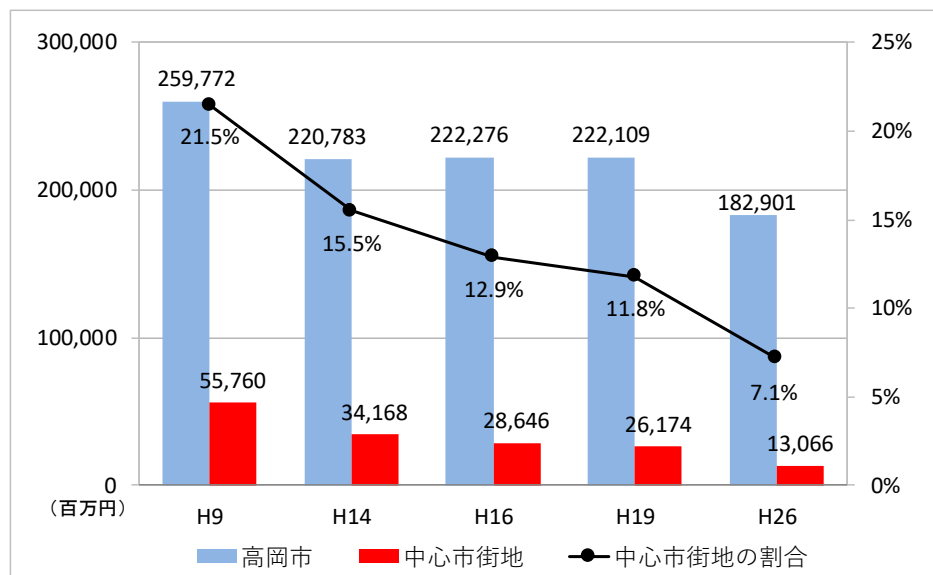
出典：経済産業省が提供する、中心市街地活性化基本計画の認定市のうち平成 30 年 3 月までに認定された 142 市 2 町について市町全域及び、中心市街地全域（町丁目・大字単位で範囲を指定）の範囲について集計された「役に立つ統計」より「小売業」の項目を積算し作成。

中心市街地における小売業従業者数の推移



出典：経済産業省が提供する、中心市街地活性化基本計画の認定市のうち平成 30 年 3 月までに認定された 142 市 2 町について市町全域及び、中心市街地全域（町丁目・大字単位で範囲を指定）の範囲について集計された「役に立つ統計」より「小売業」の項目を積算し作成。

中心市街地における小売業年間商品販売額の推移

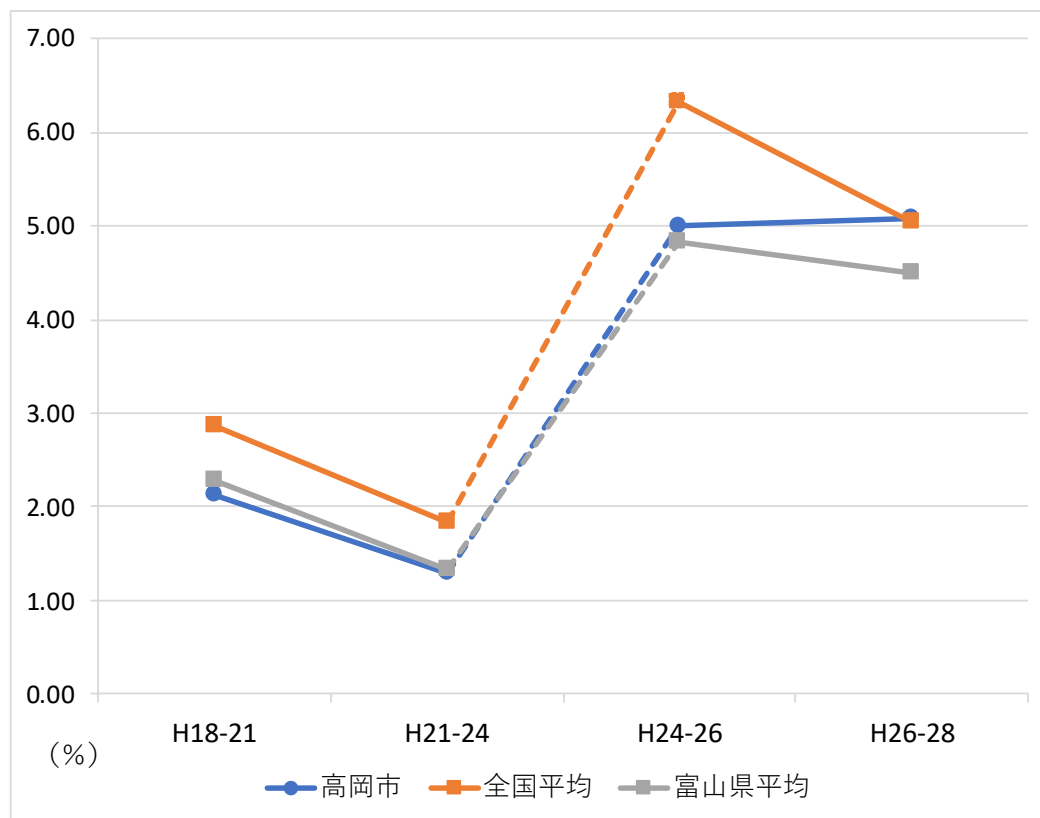


出典：経済産業省「商業統計（立地環境特性格集計）」（平成 9 年、14 年、16 年、19 年、26 年）
 （注）中心市街地の数値（H9～H26）は、中心市街地内に属する全町丁の合計。

⑦創業比率の状況

創業比率についての調査（平成 26 年～平成 28 年）では、高岡市は、富山県平均をやや上回り、全国平均とほぼ同水準となっている。

創業比率の推移



出典：総務省「経済センサス基礎調査」、総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」地域経済分析システム（RESAS）

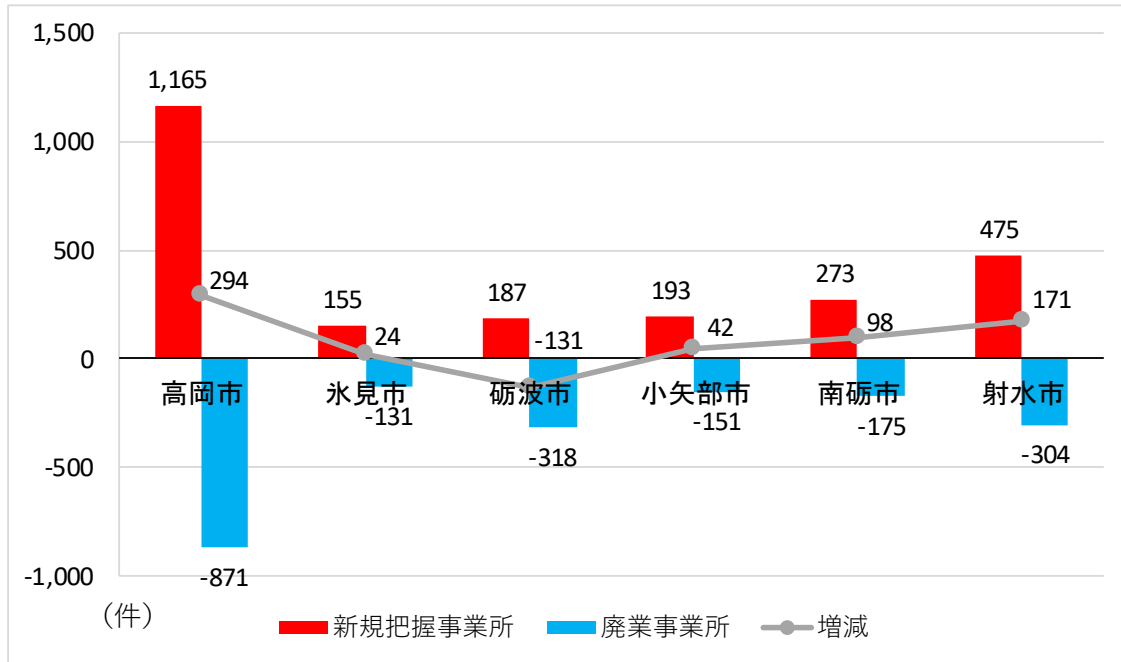
（注）平成 21 年経済センサス基礎調査及び平成 24 年経済センサス活動調査では、新設事業所の定義が異なるため、「H18-21 年」及び「H21-24 年」の創業比率は、前後の数字と単純には比較できない。

⑧県西部 6 市の創業の状況等

高岡市内の事業所の新規把握事業所件数、廃業件数は、ともに県西部 6 市のなかで最も多く、新設が廃業を 294 件上回っている。

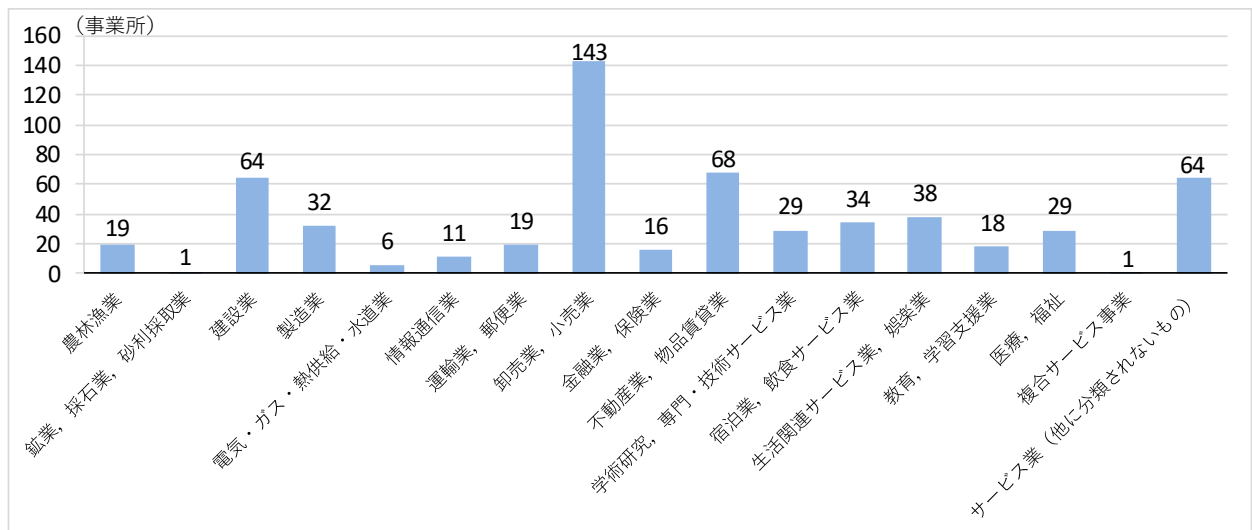
また、新規把握事業所件数の内訳で、最も多いのは卸売業・小売業の 143 件であり、次いで不動産・物品賃貸業の 68 件である。

ア. 県西部 6 市の事業所の新規把握事業件数・廃業件数



出典：総務省「経済センサス基礎調査」（令和元年）

イ. 高岡市の新規把握事業所件数（産業大分類別）



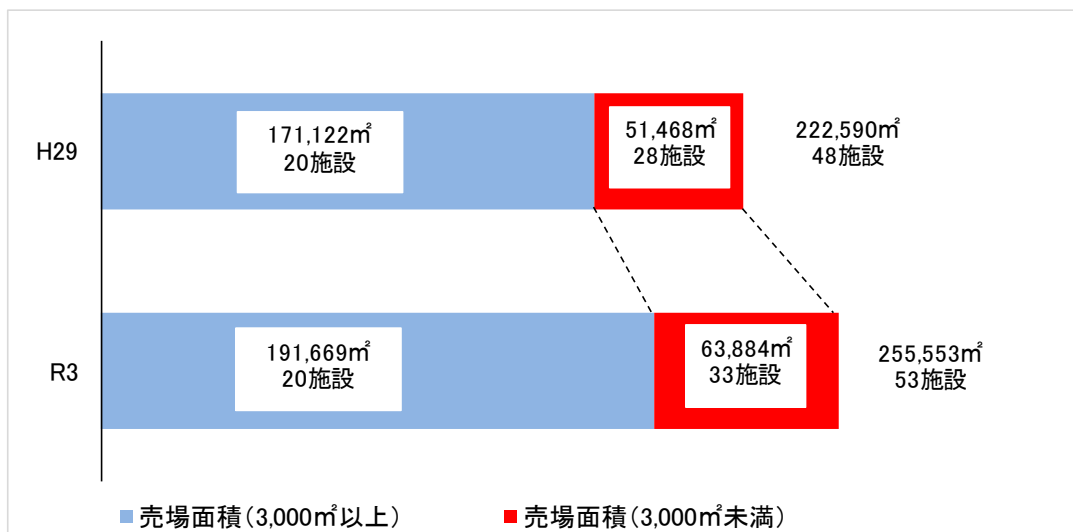
出典：総務省「経済センサス基礎調査」（令和元年）

⑨大規模小売店舗の状況

令和 3 年 4 月 1 日時点で大規模小売店舗として富山県に届出があった店舗数は高岡市内で 52 施設となっており、平成 29 年 4 月 1 日時点に比べ中心市街地外に食品スーパー、ドラッグストア等が 6 箇所で開催している。（すべて売場面積 3,000 m²未満）

これらの大規模小売店舗の売場面積合計は開店した食品スーパーにイオンモール高岡の 18,500 m²、電気店の 2,047 m²の増床を加え、全体として 255,553 m²となり、平成 29 年 4 月 1 日時点に比べ 32,963 m²の増となっている。

高岡市における大規模小売店舗の状況



大規模小売店舗の内訳

店舗名	開店日	売場面積(㎡)	店舗名	開店日	売場面積(㎡)
1 イオンモール高岡	H14.9.19	(増) 72,700	11 ひらせいスーパーセンター高岡内島店	H19.6.13	4,051
2 御旅屋セリオ	H6.3.1	19,877	12 バロー高岡木津店	H17.4.28	3,982
3 イオン高岡ショッピングセンター	S58.7.27	11,996	13 アルピス米島店	H19.6.1	3,900
4 ケーズデンキ高岡店	H25.7.4	(増) 7,475	14 高岡蓮花寺モール	H26.11.21	3,766
5 ホームセンタームサシ高岡中曽根店	H22.10.12	6,873	15 ヤマダ電機テックランド高岡店	H12.8.11	3,600
6 グリーンモール中曽根	H20.11.20	6,325	16 カーマホームセンター高岡六家店	H6.12.1	3,518
7 DCMカーマ高岡野村店	H6.4.29	5,489	17 アルペン高岡店	H10.9.10	3,281
8 ニトリ高岡店	H19.4.20	5,271	18 福岡ショッピングプラザタビス	H2.12.8	3,236
9 神島リビング	S52.5.1	5,066	19 アイタウン鐘紡	H23.7.24	3,129
10 バローショッピングセンター高岡万葉店	H11.11.18	4,738	売場面積3,000未満 33施設		63,884
			小計 52施設		242,157
第一種大規模小売店舗立地法の特例区域			店舗名	開店日	売場面積(㎡)
			ホームセンタームサシ高岡駅南店	H23.11.22	13,396
			合計 53施設		255,553

出典：富山県地域産業支援課 大規模小売店舗の概要（令和3年4月1日現在）
（注）網掛けは、中心市街地内にある店舗

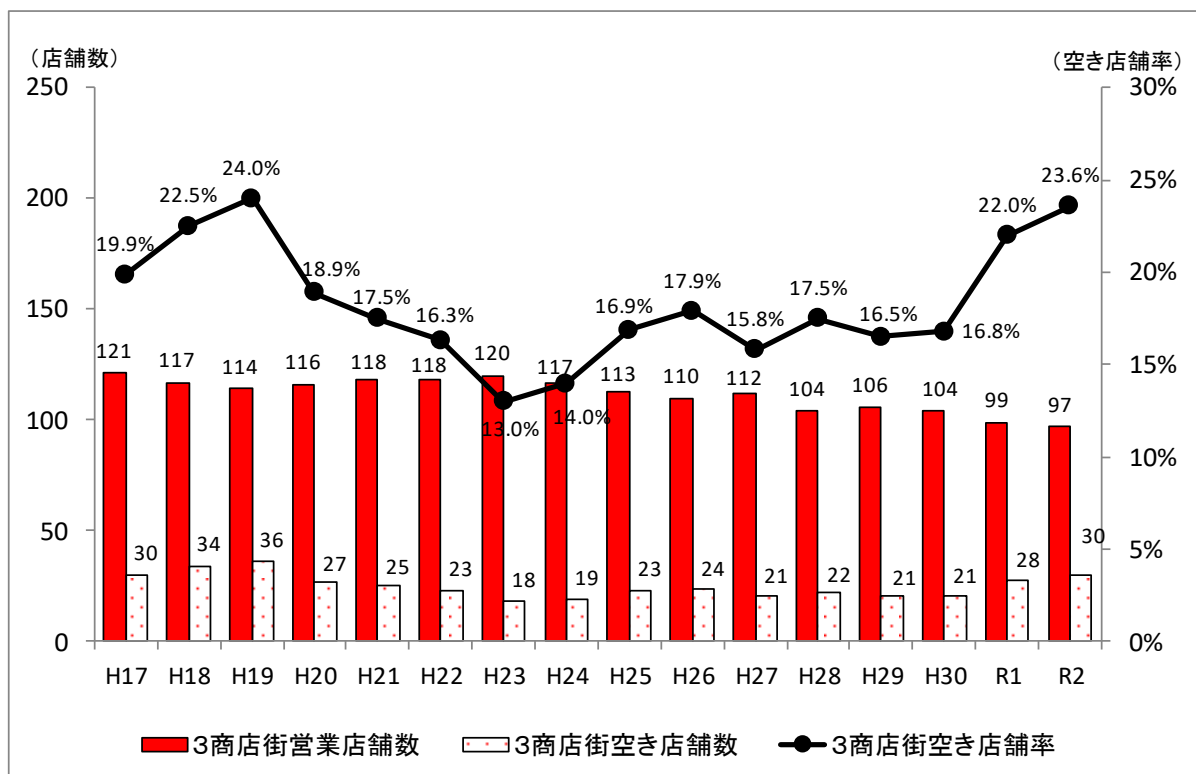
⑩中心商店街（3商店街）の空き店舗率・空き店舗件数

中心商店街（3商店街）における空き店舗率・空き店舗件数は長期間にわたって増加傾向にあったが、平成19年の24.0%をピークに、空き店舗率、空き店舗件数とも改善がみられていた。これは、開業支援事業の実施による営業店舗化促進によることも大きい。一方で、店舗の完全廃業に伴う一般住宅化が進んだ影響もある。

また、令和元年に空き店舗件数が大きく増加しているが、これは百貨店の閉店（令和元年8月）の影響により、その周辺の商店等が閉店したものと考えられる。

※3商店街は、末広町商店街、末広坂商店街、御旅屋通り商店街

中心商店街（3商店街）における空き店舗の状況



出典：高岡市商業雇用課・末広開発㈱「空き店舗調査」

（注）末広町商店街、末広坂商店街、御旅屋通り商店街の合計

⑪歩行者・自転車通行量の状況

中心市街地のメインに位置する中心商店街（6地点）における歩行者・自転車通行量は、平成19年頃まで長期にわたって減少が続いてきたが、高岡駅南北自由通路[通称：万葉ロード]の使用開始（平成23年8月）、「クルン高岡」のオープン（平成26年3月）など、駅周辺の整備・再開発が進められたこともあり、増加傾向に転じていた。

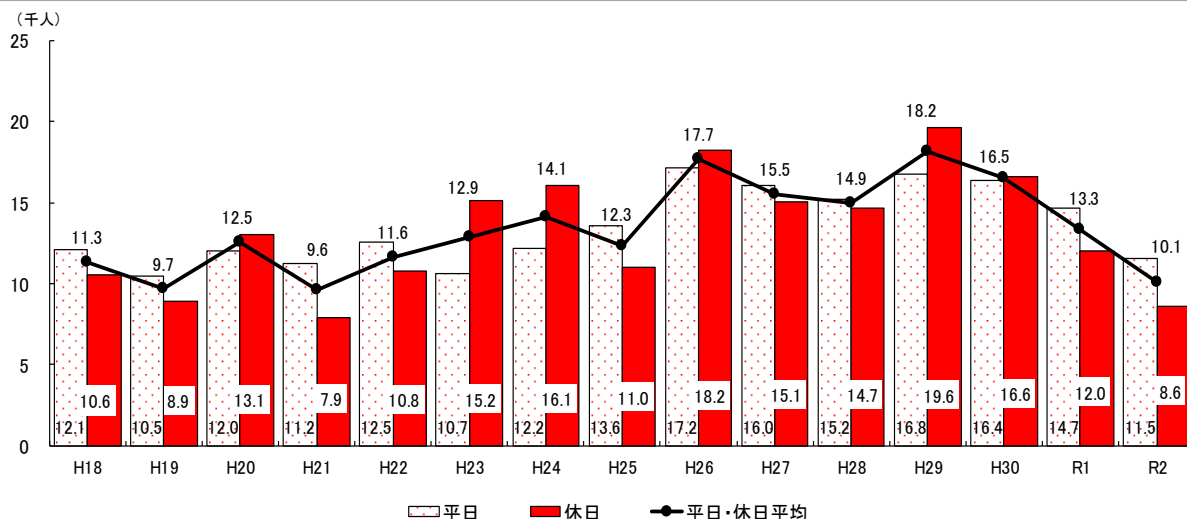
近年、平日・休日ともに減少傾向にあるのは、特に末広町（東）・御旅屋通りの減少が著しいことから、百貨店の閉店（令和元年8月）などが大きく影響していると考えられる。

【歩行者・自転車通行量6調査地

- ①高岡駅前（人工デッキ）
- ②末広町（西）
- ③末広町（東）
- ④御旅屋通り
- ⑤大仏前
- ⑥山町筋（木舟町）



中心商店街（6地点）における歩行者・自転車通行量の推移



出典：高岡市商業雇用課「歩行者・自転車通行量調査」

(注) 調査地点：①駅前地下街自由通路（平成24・25年は万葉ロード北側、平成26年以降は高岡駅北口歩行者専用道（人工デッキ））②末広町（東側）、③末広町（西側）、④御旅屋通り、⑤大仏前、⑥山町筋（木舟町）

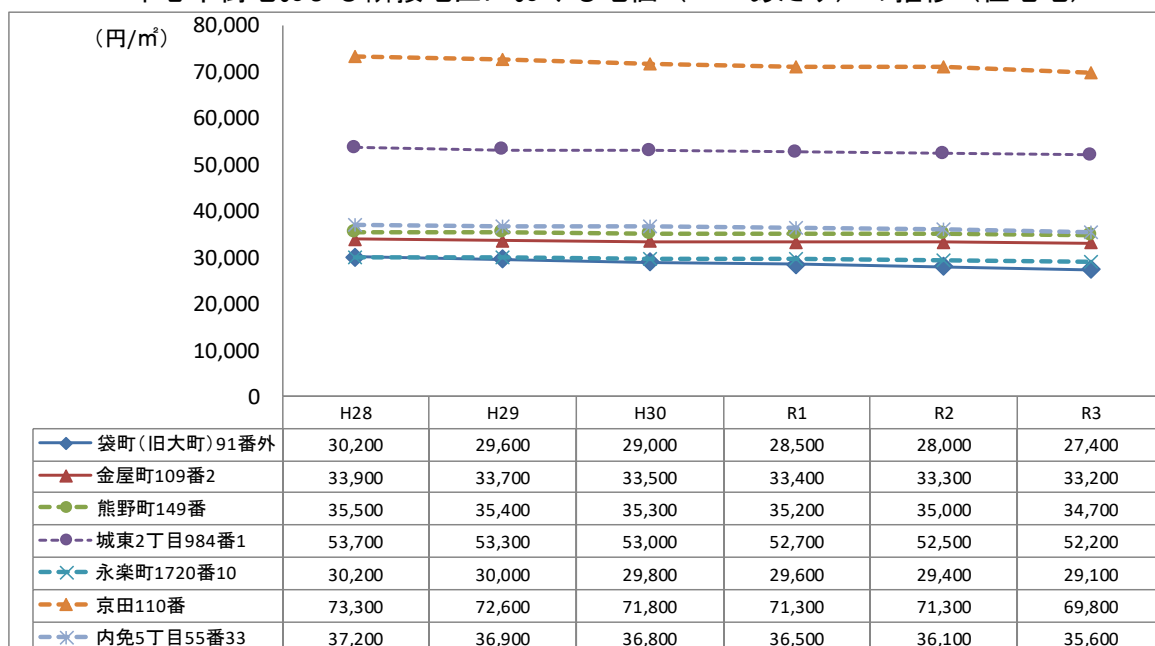
⑫地価の状況

中心市街地内住宅地の地価は、駅南部で一時的に上昇した地点があるものの、全市的に下落傾向にあり、地価も隣接する地域と比較して相対的に低くなっている。

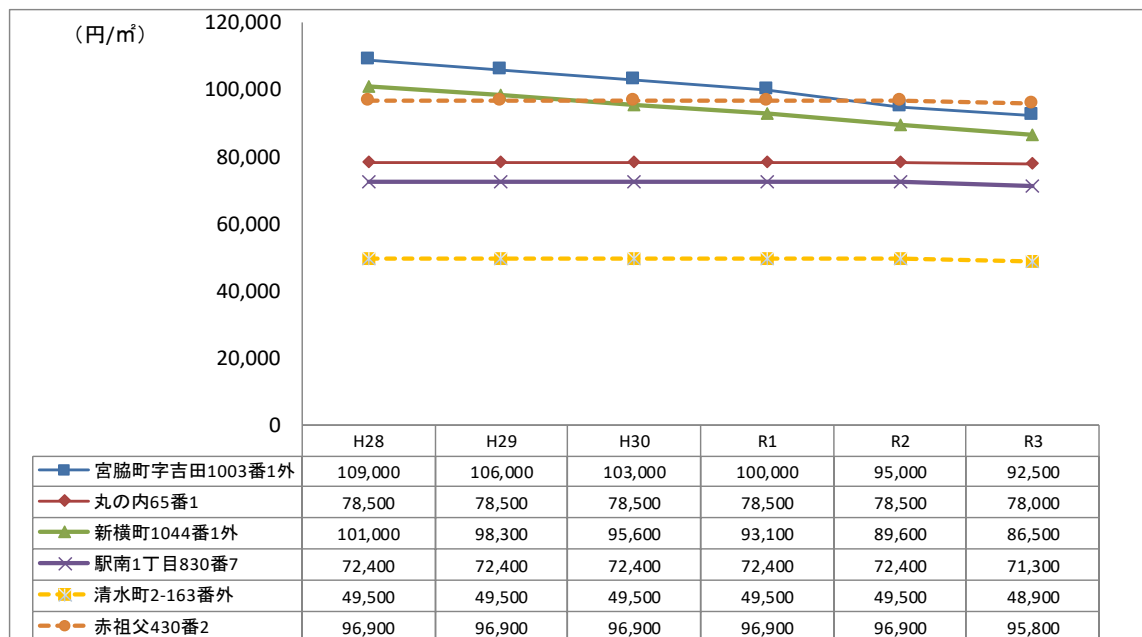
しかしながら、駅北部の中心市街地には狭隘な区画が多く、まとまった広さの土地を確保できないことに加え、老朽化した建物が多く、それらの除却費がかかることなどにより、開発が進まない状況にある。

他方、中心市街地内商業地の地価は、下落が続いているものの、その周辺地区と比較して水準自体は依然として高く、中心市街地への新たな店舗や事業所の進出が進まない要因の1つに考えられる。

中心市街地および隣接地区における地価（1㎡あたり）の推移（住宅地）



中心市街地および隣接地区における地価（1㎡あたり）の推移（商業地）



出典：国土交通省地価公示

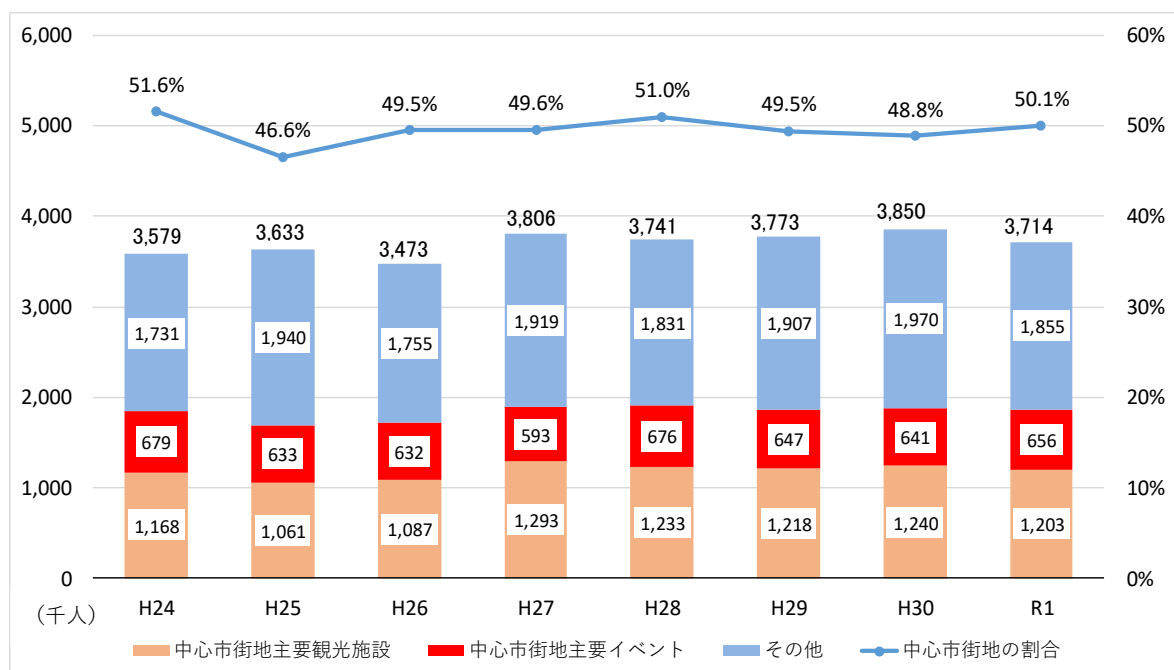
（注）破線は中心市街地に隣接する地区の公示価格

⑬観光客の状況

中心市街地には、高岡市を代表する歴史・文化資産が集積しており、本市への観光客の約半数は中心市街地に立ち寄っている。

近年の観光入込客数の状況については、北陸新幹線の開業効果もあって、平成27年に増加に転じているが、以降は横ばいで推移している。

中心市街地における観光入込客数の推移状況



出典：高岡市観光交流課

（注1）・中心市街地主要観光施設は、古城公園、瑞龍寺、高岡大仏、山町筋（菅野家住宅、土蔵造りのまち資料館、高岡御車山会館）、金屋町（鋳物資料館）を合計したもの

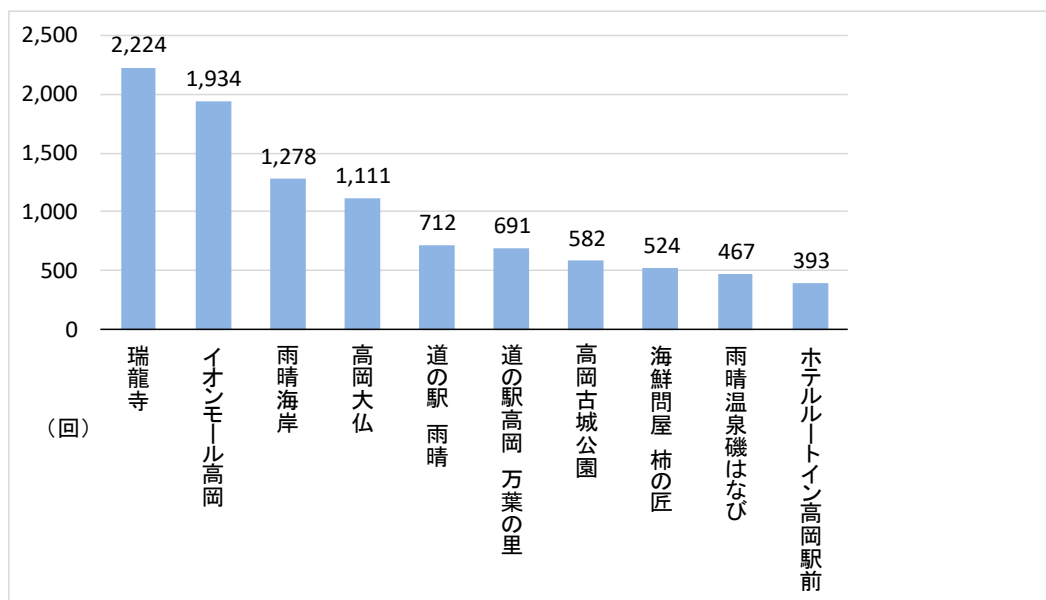
・中心市街地主要イベントは、高岡御車山祭・高岡七夕まつり・高岡万葉まつり・日本海高岡なべ祭り・高岡桜まつり・八丁道おもしろ市・金屋町楽市 を合計したもの

（注2）・瑞龍寺ライトアップは瑞龍寺の観光入込客数とし計測

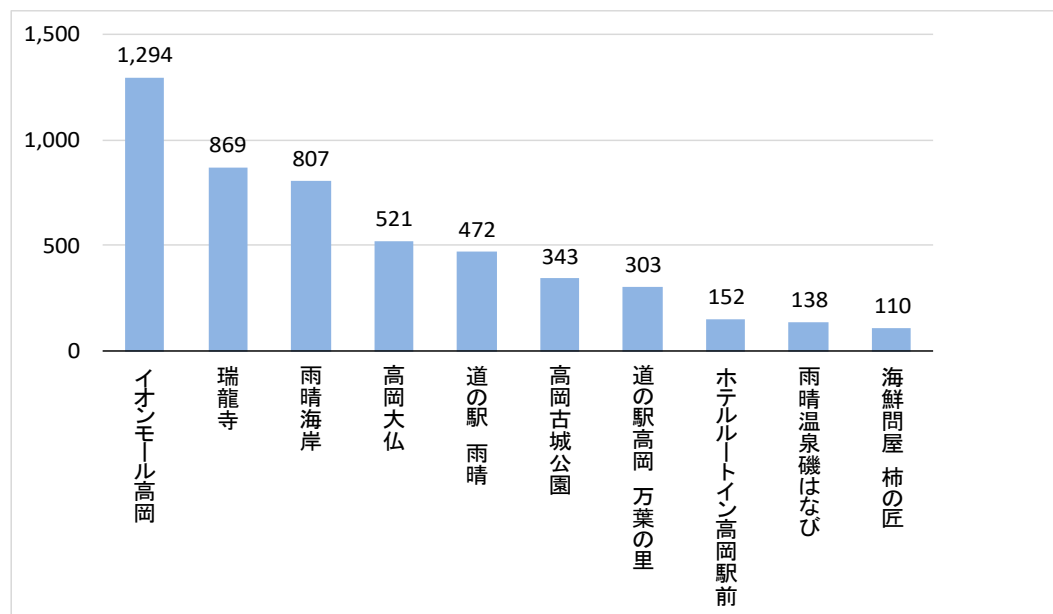
高岡市内の来訪者の状況は、目的地検索ランキング（自動車利用）によれば、中心市街地にある施設では、「瑞龍寺」（平日：上位1位、休日：上位2位）、「高岡大仏」（平日：上位4位、休日：4位）、「高岡古城公園」（平日：7位、休日：6位）となっている。

なお、令和元年度は、イオンモール高岡の増床リニューアルオープンの年であるため、大幅に増加したと考えられる。

高岡市の目的地一覧 令和元年度：平日、自動車利用



高岡市の目的地一覧 令和元年度：休日、自動車利用



出典：株式会社ナビタイムジャパン「経路検索条件データ」地域経済分析システム（RESAS）

(注) 検索回数は、同一ユーザの重複を除いた月間のユニークユーザ数。下記条件に全て該当した場合にのみ表示

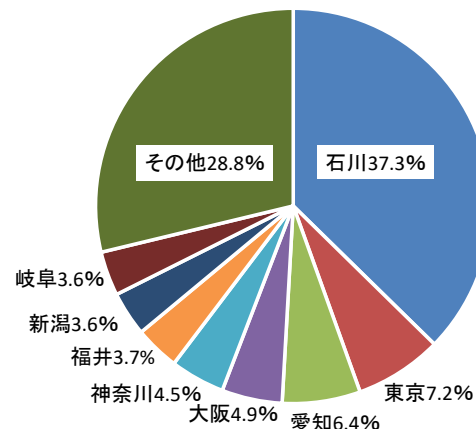
- ・施設分類が、観光資源、宿泊施設や温泉、広域からの集客が見込まれるレジャー施設や商業施設に該当
- ・平日と休日の合計年間検索回数が自動車は50回、公共交通は30回以上
- ・平日と休日の合計年間検索回数が全国1000位以内又は都道府県別50位以内又は市区町村別10位以内
- ・ここで言う年間検索回数の年間とは、「4月から翌年3月までの1年間」を指す。
- ・上記の条件で、1年間単位で集計を行うため、経年で把握ができない場合がある。

また、平日・休日ともに9割超が県内からの来訪であり、県外からの内訳は、平日、休日ともに、石川県からの来訪者が最も多く（全体の約4割）、次いで東京都、愛知県が続いている。

国内から高岡市に来訪した人の内訳（令和元年 平日）

- ・ 滞在人口/富山県内 131,307人 地域内割合 95.5%
- ・ 滞在人口/富山県外 6,190人 地域外割合 4.5%

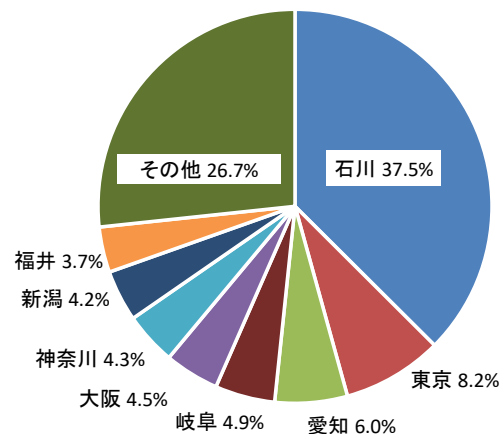
内訳1位	石川県	2,311人(37.3%)
2位	東京都	444人(7.2%)
3位	愛知県	396人(6.4%)
4位	大阪府	306人(4.9%)
5位	神奈川県	277人(4.5%)
6位	福井県	226人(3.7%)
7位	新潟県	225人(3.6%)
8位	岐阜県	224人(3.6%)
その他		1,781人(28.8%)



国内から高岡市に来訪した人の内訳（令和元年 休日）

- ・ 滞在人口/富山県内 131,954人 地域内割合 94.2%
- ・ 滞在人口/富山県外 8,058人 地域外割合 5.8%

内訳1位	石川県	3,019人(37.5%)
2位	東京都	664人(8.2%)
3位	愛知県	480人(6.0%)
4位	岐阜県	396人(4.9%)
5位	大阪府	361人(4.5%)
6位	神奈川県	347人(4.3%)
7位	新潟県	340人(4.2%)
8位	福井県	301人(3.7%)
その他		2,150人(26.7%)



出典：株式会社NTTドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計®」

総務省「国勢調査」（平成27年）、地域経済分析システム「RESAS」

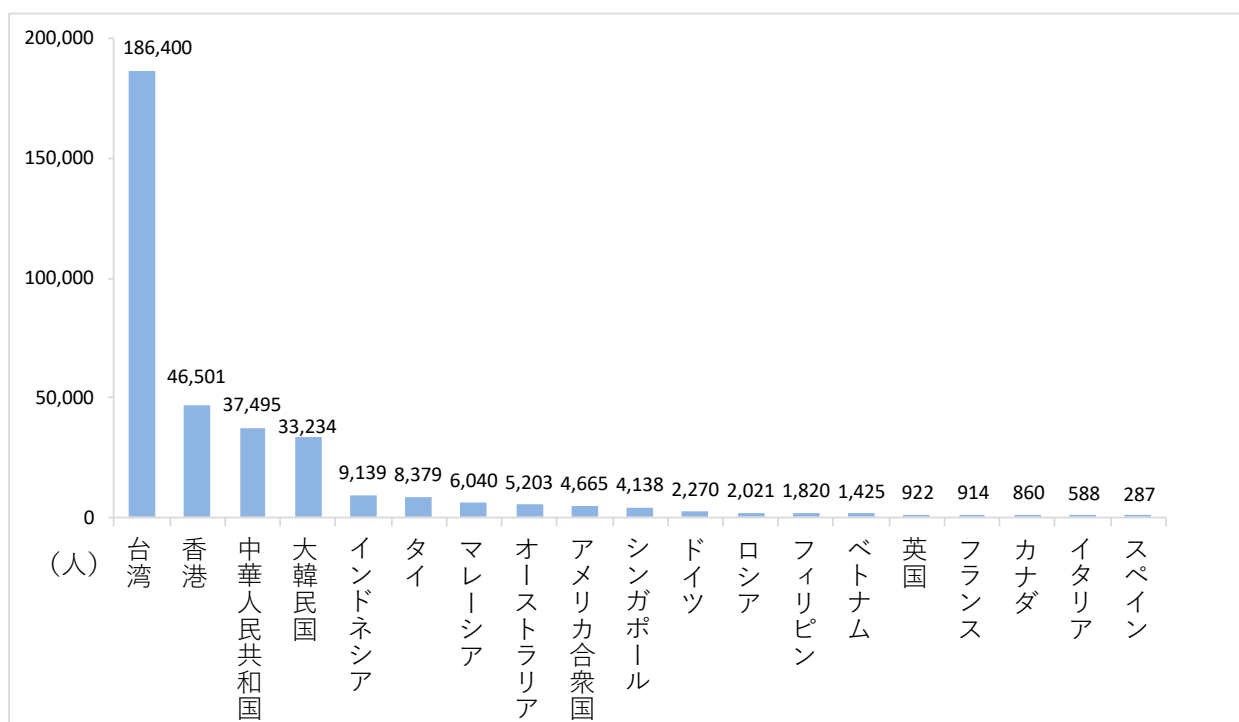
（注）滞在人口とは、指定地域の指定時間の14時に滞在していた人数の月間平均値（平日・休日別）を表している。滞在人口率は、滞在人口（株式会社NTTドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計®」）÷国勢調査人口（総務省「国勢調査」夜間人口）で表される。

携帯電話の運用データについては国籍に関わらず契約者のデータが使用されていることから、滞在人口の算出には国内に居住する外国人も推計として含まれている。

観光・レジャーなどを目的に富山県へ来訪した外国人の内訳は、台湾が最も多く（全体の約5割）、その他、香港、中華人民共和国、大韓民国などの東アジアからの来訪者が多い。

高岡市内の延べ宿泊者数は、平成28年には25万人、平成30年には30万人を超え、増加傾向となっている。特にインバウンドの増加が顕著であり、外国人の延べ宿泊者数が、平成30年に年間1万人を超え、推移している。

外国から富山県に来訪した人の内訳（令和元年）

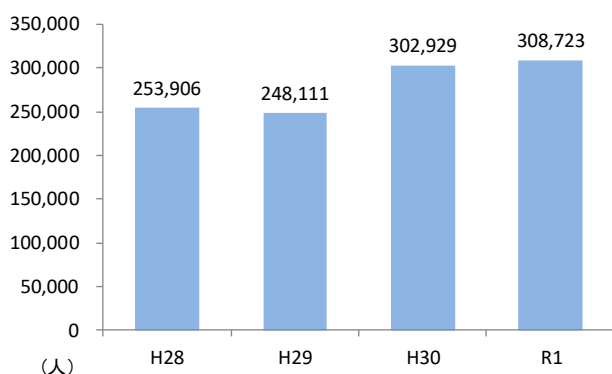


出典：観光庁「訪日外国人消費動向調査」、日本政府観光局「訪日外客数」地域経済分析システム（RESAS）

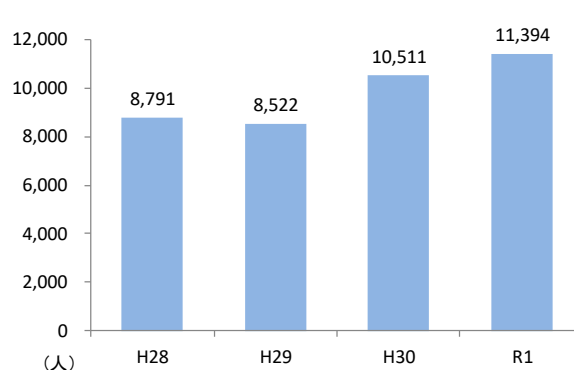
（注）目的には、観光・レジャー目的、親族・知人訪問、企業ミーティング、研修等が含まれる。

「地域別の訪日外客数＝地域別の訪問率×訪日外客数」により推計している。

高岡市内延べ宿泊者数

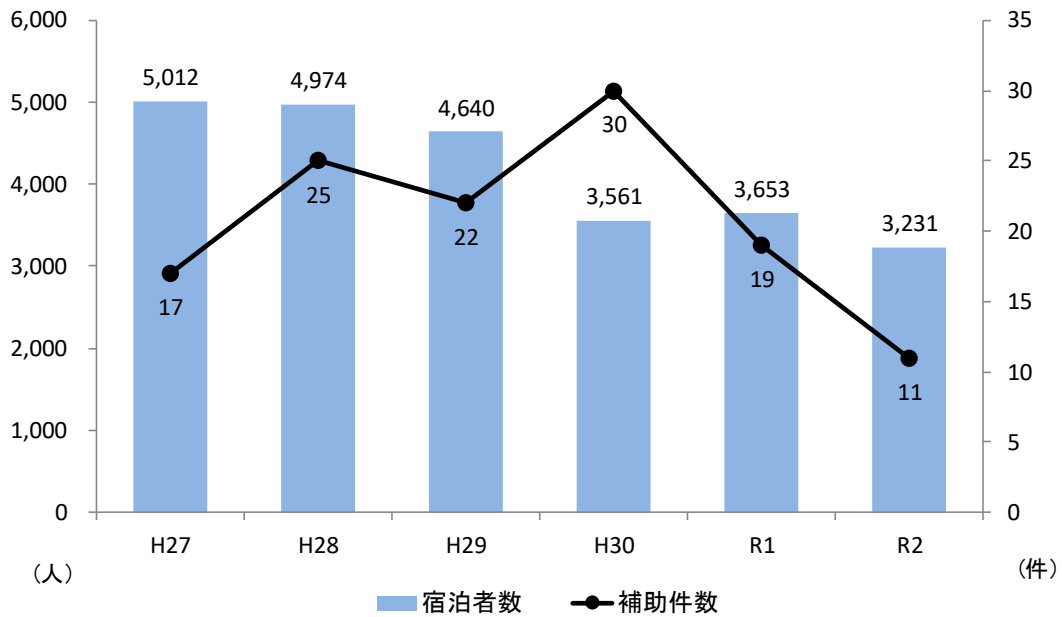


（うち外国人延べ宿泊者数）



出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」

高岡市内のコンベンション開催における宿泊者数、補助件数の推移



出典：高岡市観光交流課

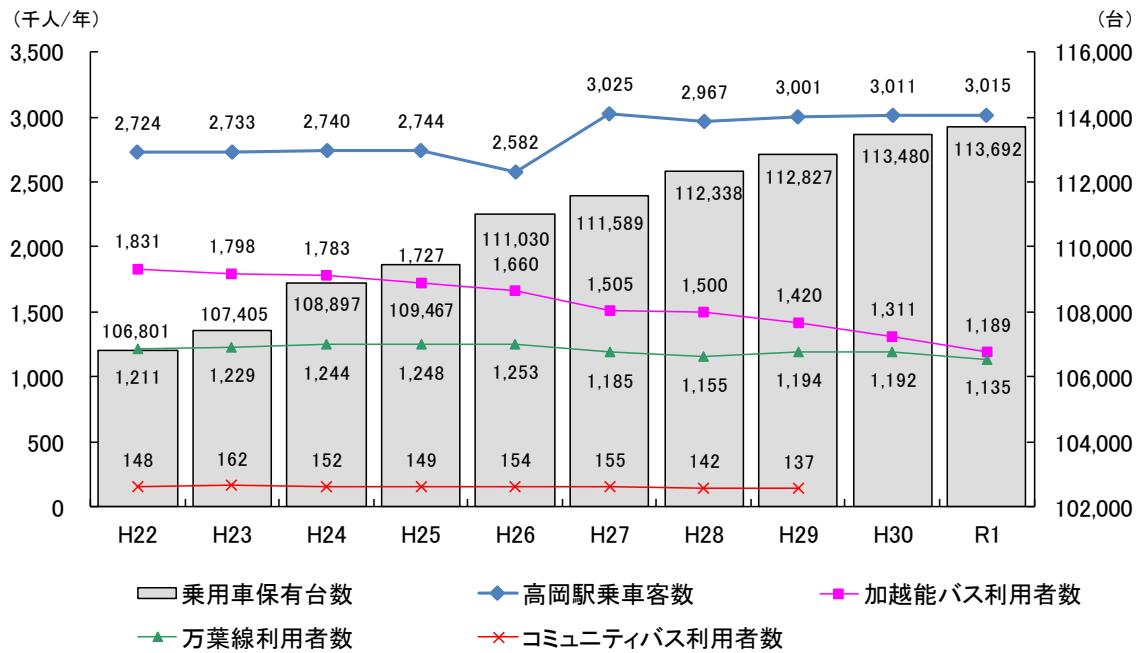
⑭高岡駅周辺における公共交通利用者の状況

高岡市全体の公共交通利用者の状況については、乗用車保有台数が増加傾向にある一方で、ＪＲ・あいの風とやま鉄道及び万葉線の利用者は横ばい、加越能バスの利用者は年々減少している。

高岡駅は、鉄道、路面電車、路線バス等が発着する交通結節点であり、多様な公共交通の拠点として機能している。

高岡駅における各公共交通の１日当たりの乗車利用者数（令和元年度）は、ＪＲ・あいの風とやま鉄道が約 8,200 人、万葉線が約 1,000 人、加越能バスが約 1,400 人（合計約 10,600 人）と推定される。

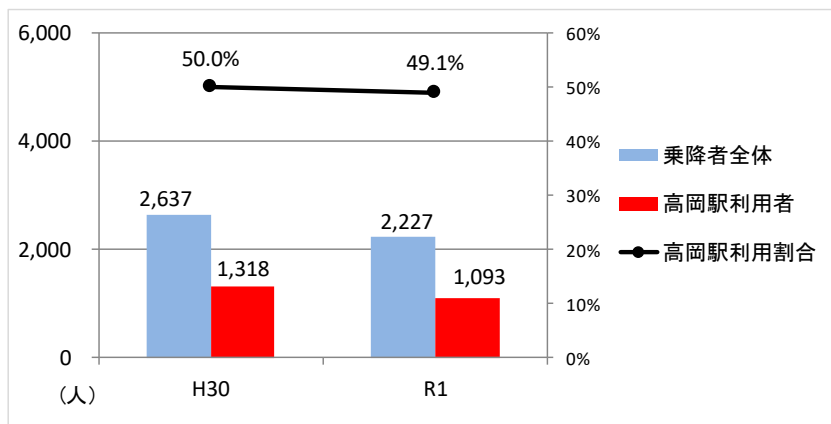
公共交通機関の利用状況



出典：高岡市統計書 (注)コミュニティバスは、H29 年度末で廃止

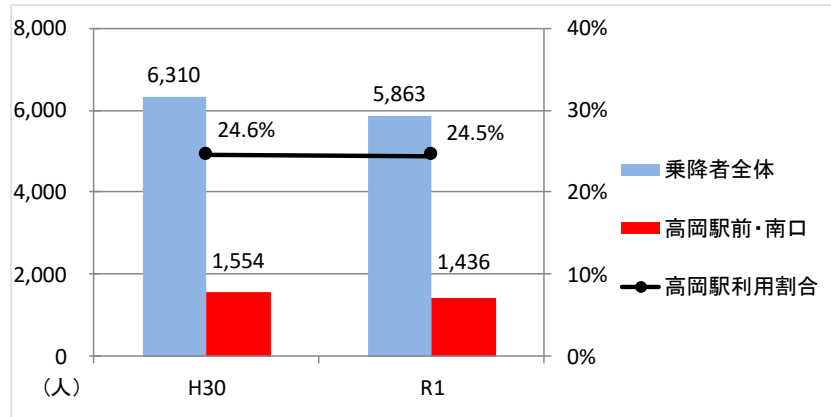
万葉線と加越能バスにおける高岡駅電停・バス停の乗降者数

【万葉線】1日の乗降者数（平日）



出典：万葉線
平成 30 年、令和元年調査

【加越能バス】1日の乗降者数（平日）



出典：加越能バス
平成 30 年、令和元年調査

(4) 市民から見た中心市街地の現状

①中心市街地活性化に関する市民アンケート

i) 調査実施時期

令和3年6月12日～7月7日

ii) 調査対象・方法

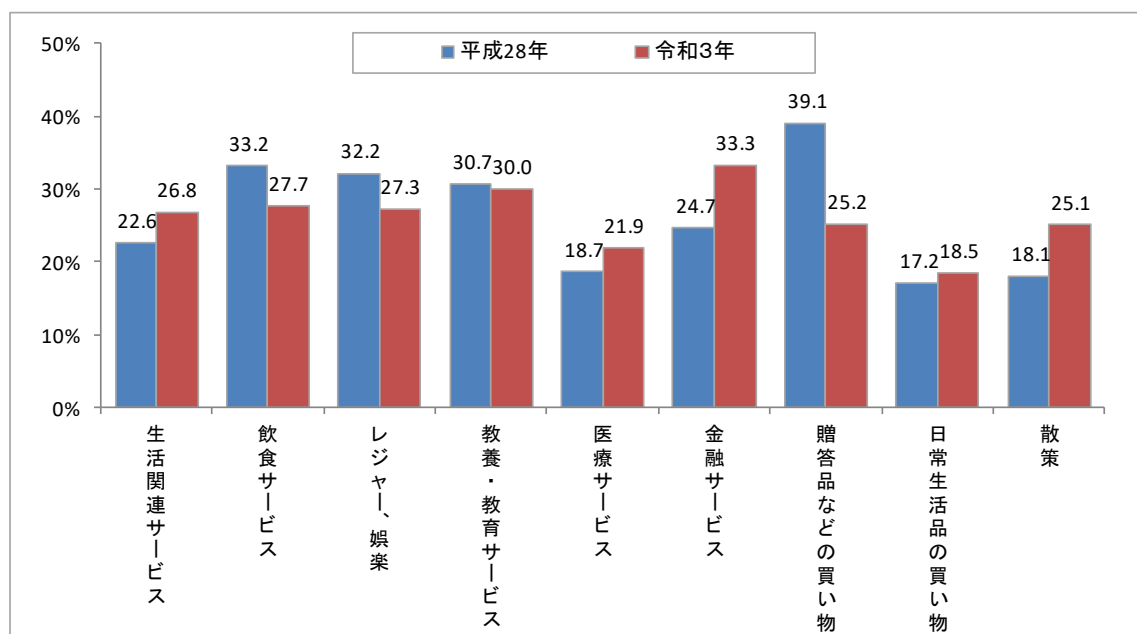
18歳以上の市民2,000人を無作為に抽出し、調査票を郵送にて配布。郵送又はWEB回答により回収し、809人から回答を得た（回収率40.5%）。

iii) 中心市街地の利用状況

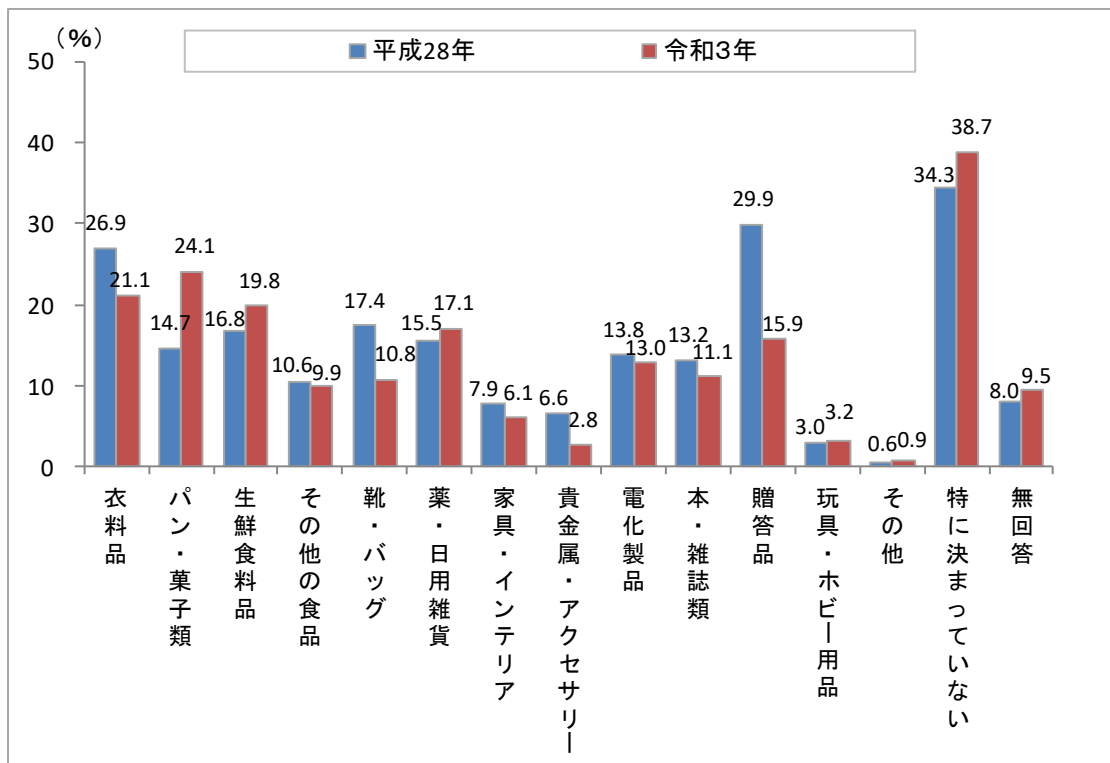
平成18年、23年の過去の調査においては、中心市街地への来訪は「贈答品などの買い物」目的が突出して高く、婦人服、貴金属を加えると全体の約8割を占めるなど、市内全域を商圈（中心市街地＝買い回り品商圈）とする商業集積が維持されていた。しかし、令和元年8月に百貨店が撤退した影響もあり、平成28年の調査（以下、「前回調査」）と比べて今回の調査では「贈答品などの買い物」が13.9ポイント減少している。そのほかの購買品目についても「衣料品」「靴・バッグ」「贈答品」と回答する割合が減っており、百貨店の撤退や郊外大型店の拡張などの商業環境の変化が影響したと考えられる。

一方で、食料品関係を含む日常の買い物について微増傾向となっており、中心市街地区域内にスーパーマーケットが平成30年に開店した影響が考えられる。前回調査に比べて8.6ポイント増加した「金融サービス」は、高岡駅前に令和元年11月に銀行本店が移転オープンしたためとみられる。

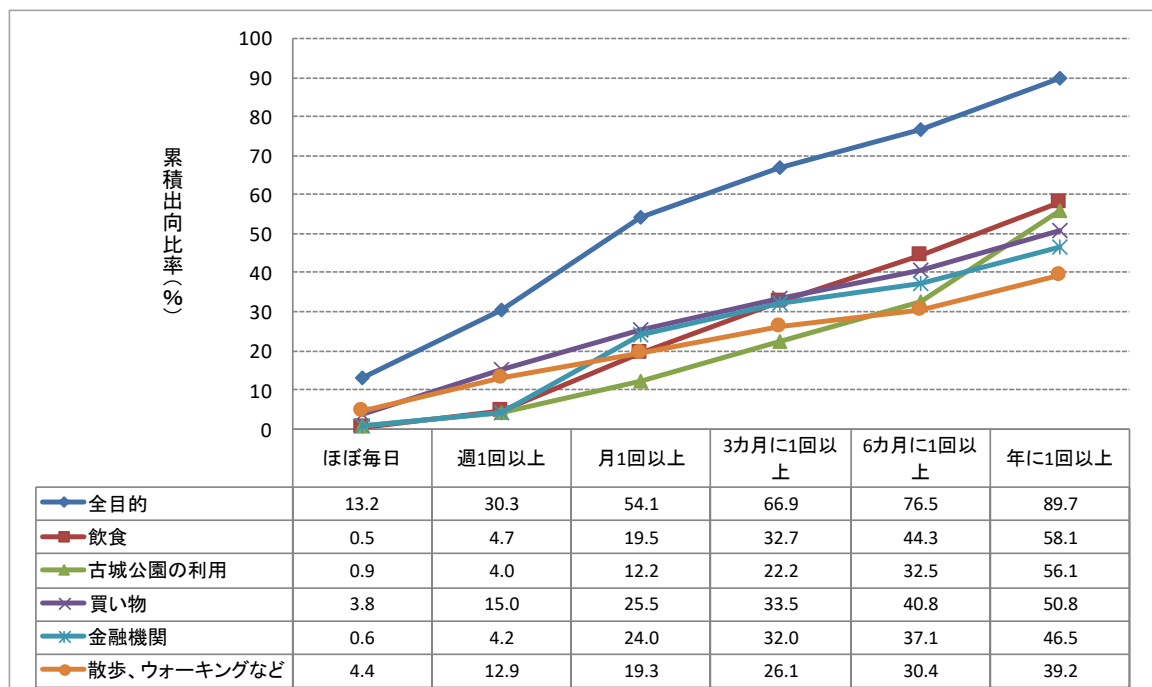
中心市街地の選択状況（中心市街地の利用機会が多いと回答した割合）



中心市街地での購買品目（複数回答）



年に1回以上中心市街地に出かける目的別割合（累積頻度の上位項目のみ）



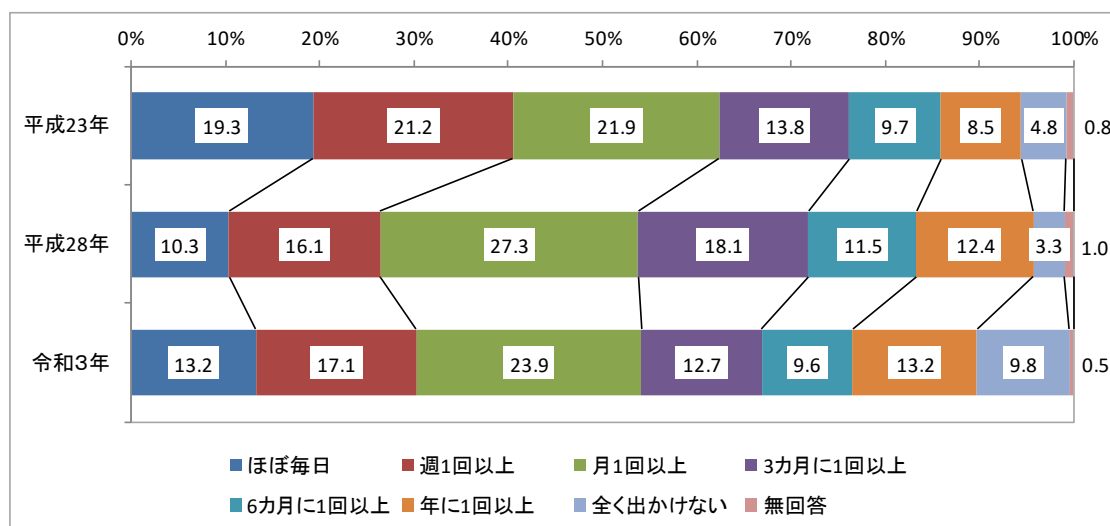
iv) 中心市街地への来街状況

何らかの目的で中心市街地に出かける頻度を累積してみると、「ほぼ毎日」が1割、『週に1回以上』で3割、『月に1回以上』で5割、『3カ月に1回以上』で6割、『6カ月に1回以上』で7割を超えている。新型コロナウイルスの影響もあり、「全く出かけない」と回答する割合は1割弱となっているものの、全市民の9割近くが何らかの目的で最低でも1年に1回以上は中心市街地を訪れていることになる。目的別の来街頻度については、当該行動の実施頻度が異なることから一概には比較できないが、来街頻度は「買い物」「金融機関」「飲食」の順で高くなっている。上位3項目は前回調査から変わらず、これらが中心市街地への主要な来街誘因となっていると推察される。

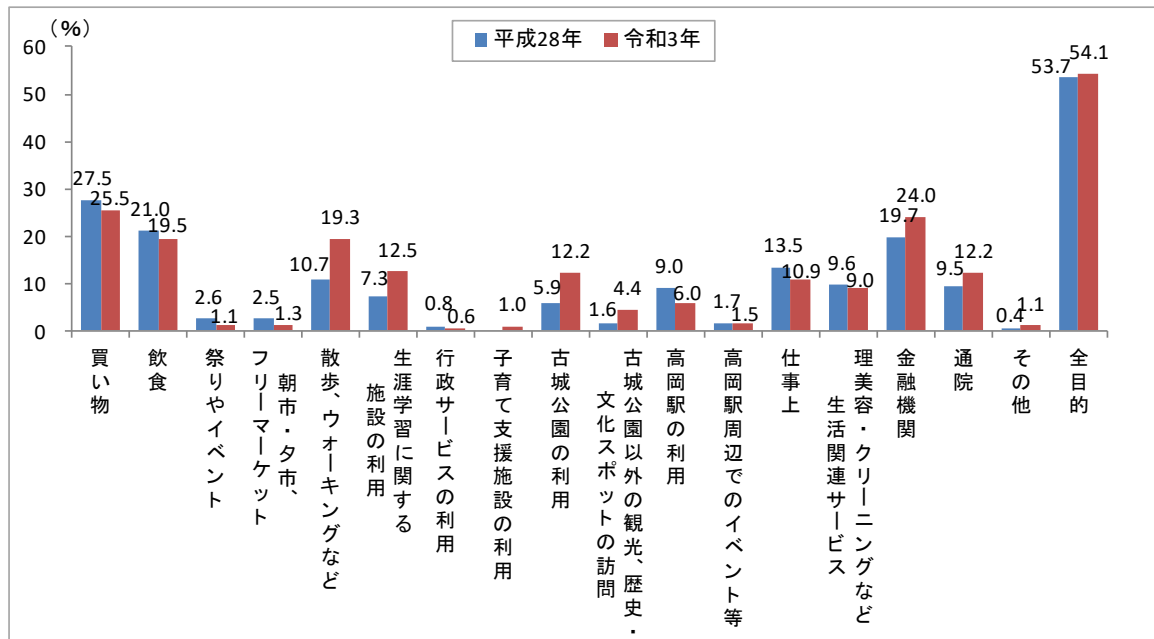
来街者の滞在時間については、『1時間未満』とする回答が38.4%と前回調査より10.3ポイント増えている一方、『1時間以上』とする回答は40.4%と前回調査より15.2ポイント減っている。

来街頻度の変化について、「減った」と回答したのは6割近くにのぼっており（前回調査では35.3%）、「増えた」と「変わらない」を合わせた割合を23.0ポイント上回っている。「減った」と回答した人のうち6割超が、その理由として「外出の機会が減った（新型コロナウイルスの影響を含む）」と回答している。また、来街目的をみると、来街頻度が減少した人では「飲食」が6割、「買物」が5割を超えている。買い物の減少については、百貨店の閉店も要因の一つと考えられるが、ネットショッピングの利用頻度をみると、『月1回以上』利用すると回答した割合が3割を超えており、その普及による影響も見受けられる。

来街頻度（全目的）

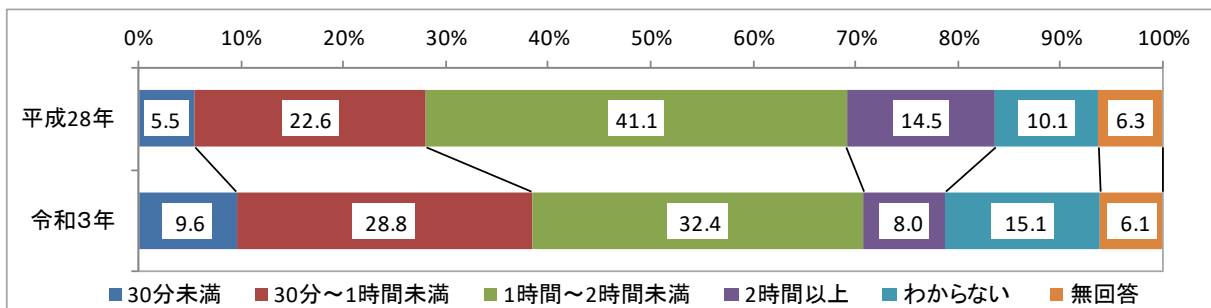


1カ月に1回以上来街する人の割合（目的別）

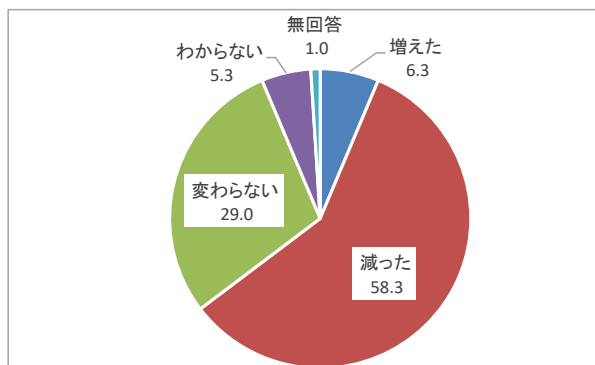


（注）「生涯学習に関する施設の利用」は平成28年調査の「ウイング・ウイング高岡の利用」と比較、「行政サービスの利用」は「オタヤ市民サービスコーナー、子育て支援センター等」と比較した。「子育て支援施設の利用」については比較対象なし。

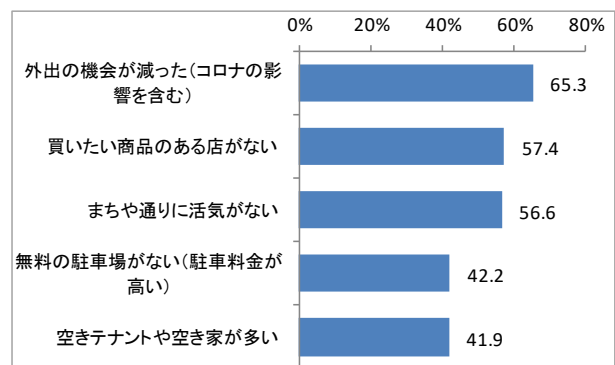
中心市街地への来街の滞在時間



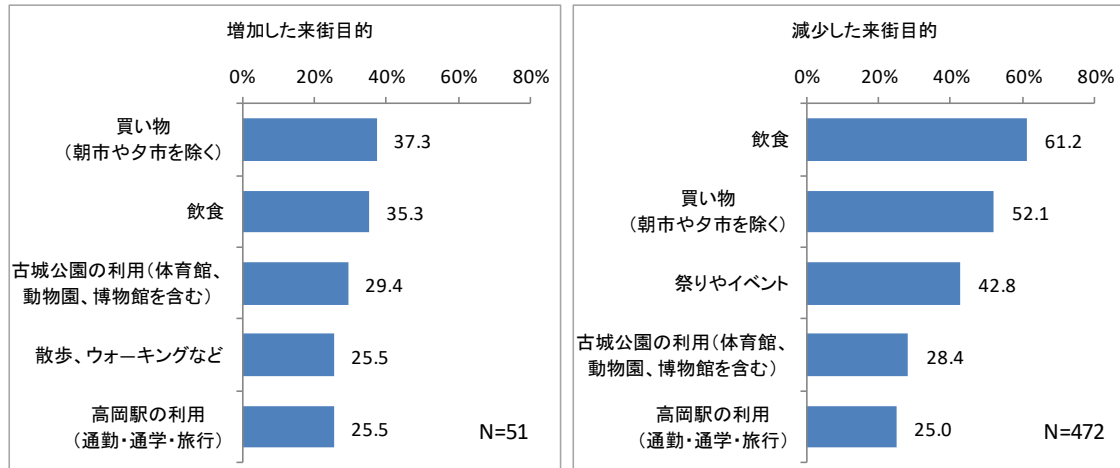
来街頻度の変化



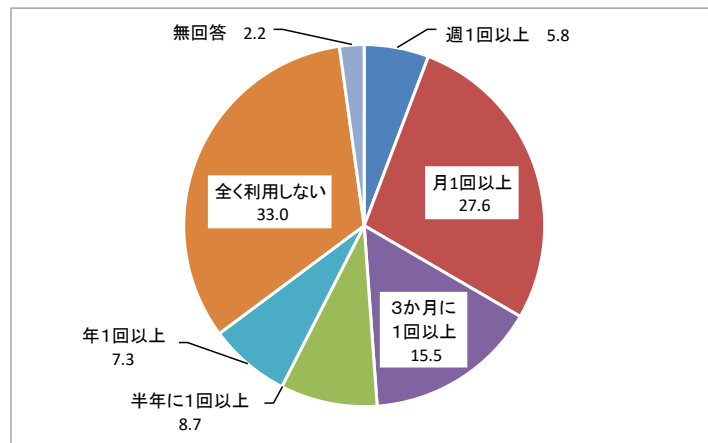
来街頻度が減った理由の上位5項目（複数回答）



頻度が変化した来街目的（複数回答）



ネットショッピングの利用頻度



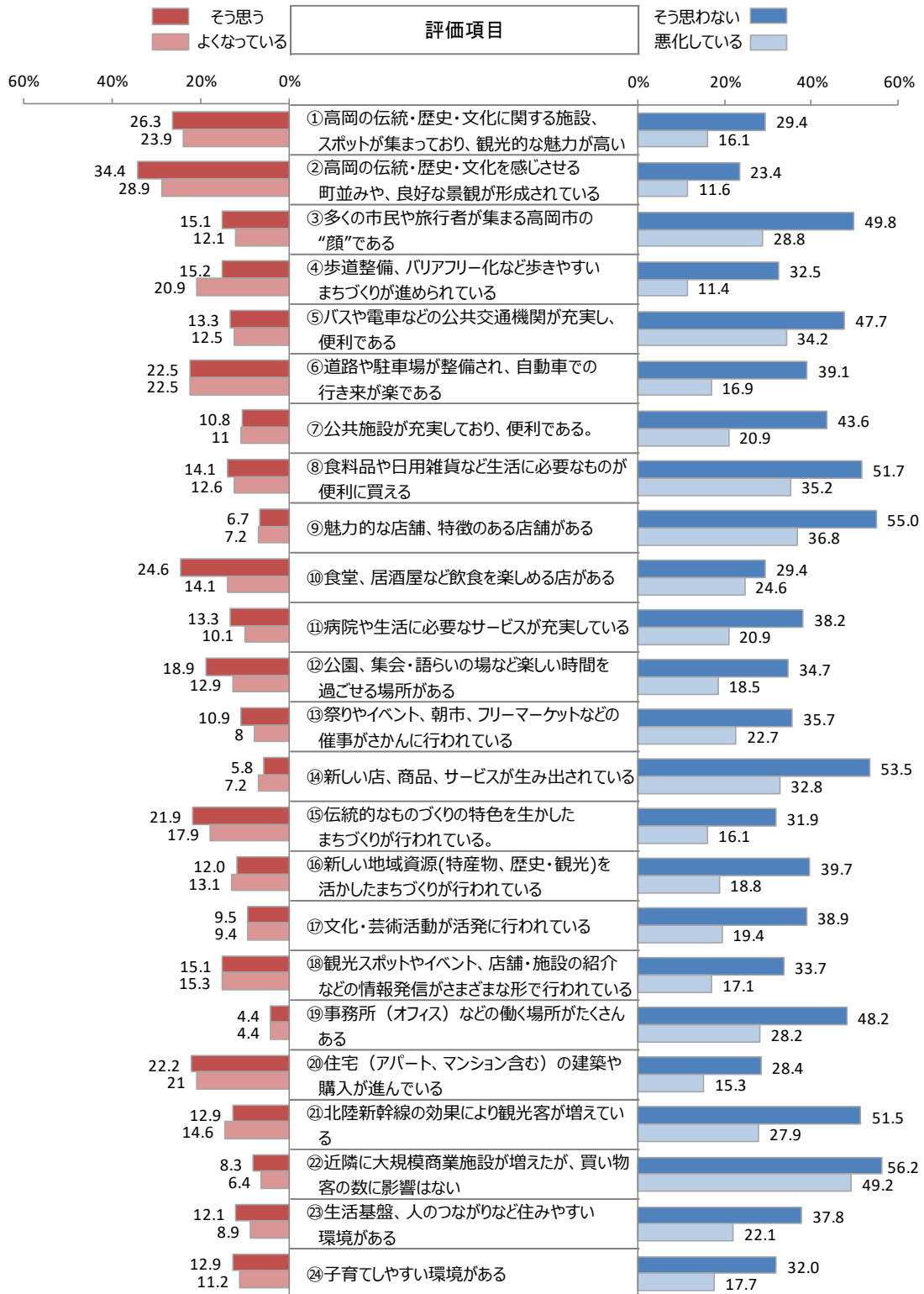
v) 中心市街地に対する現状認識及び改善の評価

中心市街地の現状について項目別に尋ねたところ、「そう思う」と回答した割合が「そう思わない」と回答した割合を上回ったのは「高岡の伝統・歴史・文化を感じさせる町並みや、良好な景観が形成されている」のみで、中心市街地に対する現状認識は全体として非常に厳しいものがある。

4～5年前からの改善状況について「よくなっている」と回答した割合が「悪化している」の回答割合を上回った項目は、「高岡の伝統・歴史・文化に関する施設、スポットが集まっており、観光的な魅力が高い」「高岡の伝統・歴史・文化を感じさせる町並みや、良好な景観が形成されている」「歩道整備、バリアフリー化など歩きやすいまちづくりが進められている」「道路や駐車場が整備され、自動車での行き来が楽である」「伝統的なものづくりの特色を生かしたまちづくりが行われている」「住宅の建築や購入が進んでいる」の6項目である。

また、現状、改善状況ともに「そう思わない」「悪化している」の回答割合の高かった上位2項目は共通しており、「近隣に大規模商業施設が増えたが、買い物客の数に影響はない」と「魅力的な店舗、特徴のある店舗がある」である。特に、前者は半数近くが「そう思わない」「悪化している」と回答していることから、近隣に大規模商業施設が増えたこと、ネットショッピング等のECの普及進展等が中心市街地の現状認識に大きなマイナスの評価を与えていることがわかる。

中心市街地の現状及び4～5年前からの改善状況への評価

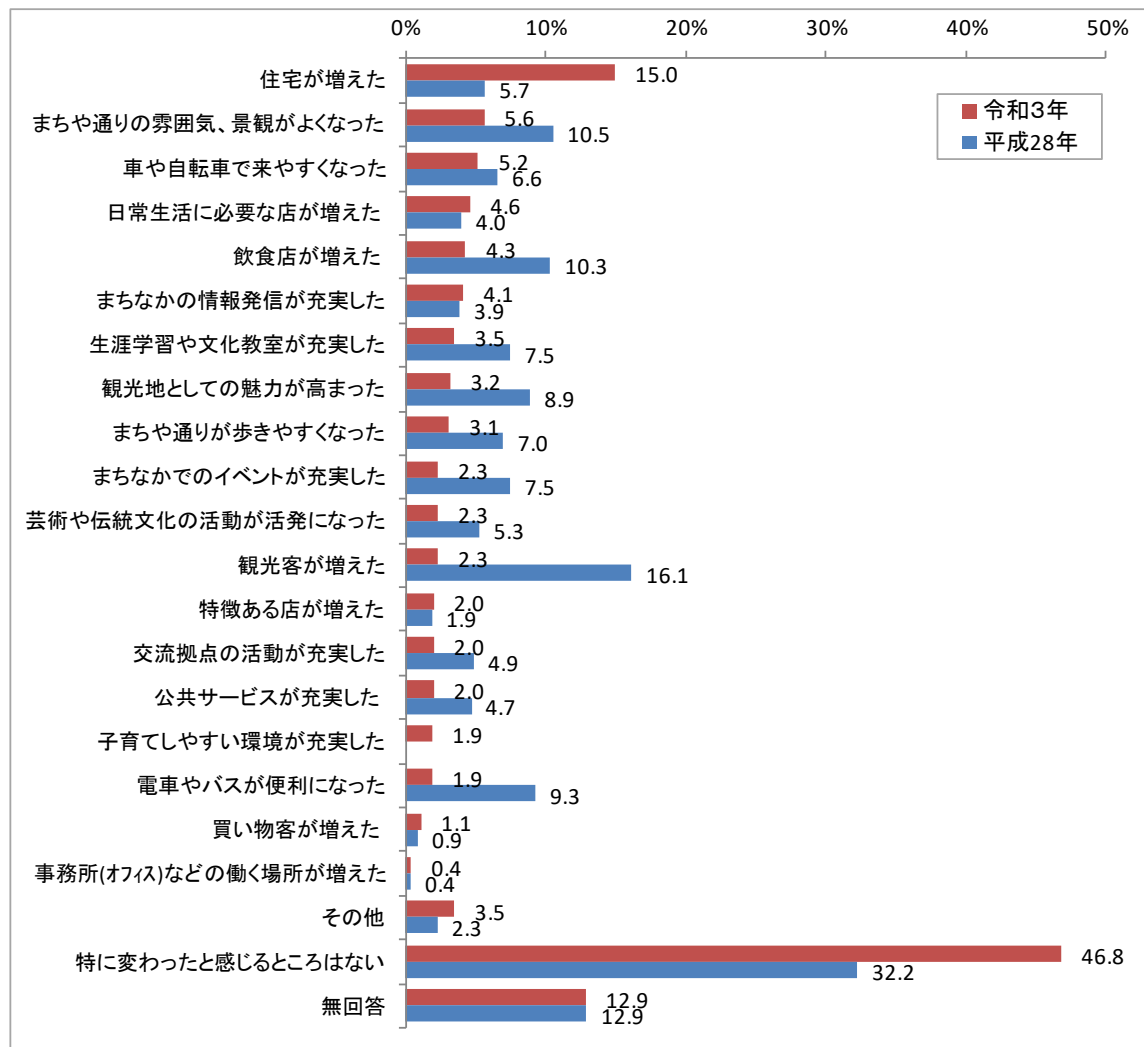


vi) 中心市街地活性化の取組みに対する評価

これまでの中心市街地活性化の取組みに対する評価が高かったのは、「住宅が増えた」15.0%で、前回調査から約10ポイントと大きく上昇している。高岡駅周辺や末広町でのマンションの着工や入居が始まったことによる影響と考えられる。前回調査で最も評価の高かった「観光客が増えた」については、新型コロナウイルスの影響により、10ポイント以上下落している。

一方で、「特に変わったと感ずるところはない」と回答した割合が半数近くに上り、前回調査から10ポイント以上増えている。全体として前回調査よりも良くなったと評価する割合は低くなっている。

中心市街地で「良くなった点」（複数回答）



②まちなか居住者アンケート調査

i) 調査実施時期： 令和3年6月12日～7月7日

ii) 調査対象・方法

中心市街地及びその周辺部（平米地区、定塚地区、博労地区、成美地区、川原地区、下関地区、西条地区の各一部）の20歳以上の居住者1,500名を無作為に抽出し、調査票を郵送にて配布。郵送又はWEB回答により回収し、716人から回答を得た（回収率47.7%）。

iii) 中心市街地の居住環境に対する評価

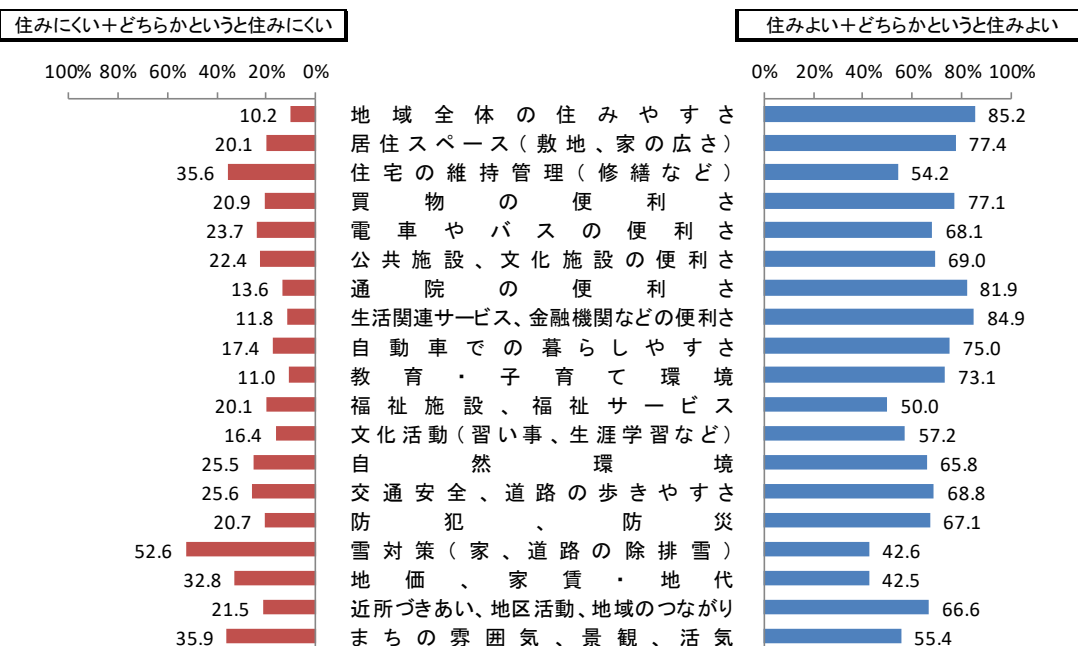
総合指標としての「地域全体の住みやすさ」については、平成28年の調査（以下、「前回調査」）の84.9%から微増となる85.2%が「住みよい・どちらかという」と「住みよい」と回答していることから、現在の居住者にとって中心市街地の居住環境は良いものとみられる。

居住環境について細かく見てみると、「住みよい・どちらかと言えば住みよい」の上位項目は、「生活関連サービス、金融機関などの便利さ」が84.9%、「通院の便利さ」が81.9%とともに8割を超えている。

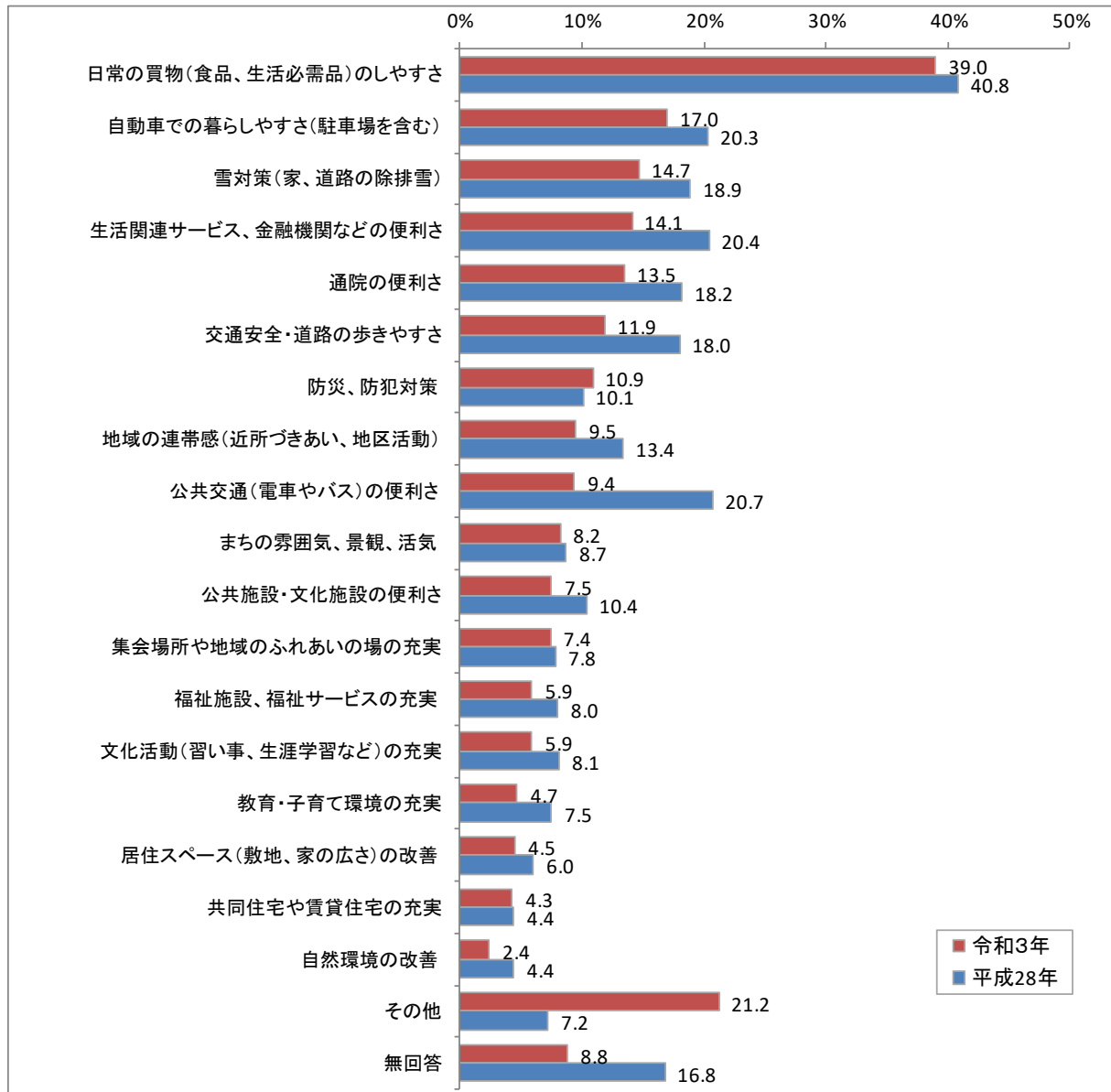
一方、「住みにくい・どちらかという」と「住みにくい」の上位項目は、「雪対策」が52.6%、「まちの雰囲気、景観、活気」(35.9%)、「住宅の維持管理」(35.6%)となっている。

4～5年前に比べ居住環境で改善した項目として最も多く選択されたのは「日常の買物のしやすさ」であり、中心市街地区域内にスーパーマーケットが平成30年に開店した影響であると考えられる。一方で、全体としてみると、改善したとする事項が前回調査よりも減少しており、増加した「その他」の自由回答では、「改善しているものがない」、「変わらない」などと指摘する声が目立った。

中心市街地の住みよさ



まちなかの居住環境について「良くなったもの」（複数回答）



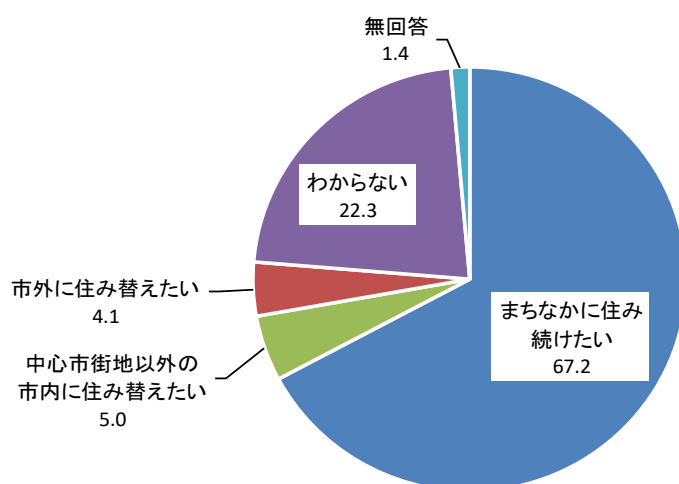
iv) 今後予想されるニーズへの対応

回答者の7割近くが「まちなかに住み続けたい」と回答しており、まちなか以外へ移転を希望する回答は1割以下と非常に少なくなっている。前回調査から引き続き、まちなかへの強い居住意向があることがうかがえる。

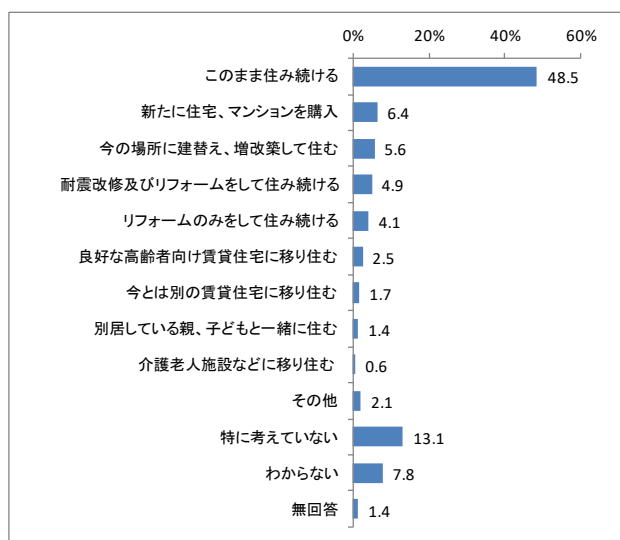
また、今後希望する居住形態としては、「このまま住み続ける」との回答が48.5%と最も高い。さらに、「今の場所に建替え、増改築して住む」、「リフォーム等をして住み続ける」を合わせると、6割を超える人が現在の場所で居住を続ける意向があるようである。

一方、住み替えを希望する回答者においては、36.9%が売却意向を持っている。しかし、「そのままにしておく」という回答が、前回調査（2.7%）から9.6ポイントと大きく上昇し12.3%となっている。解体にかかる費用、住み慣れた場所への思い入れ、将来的に使用する可能性などの課題が考えられるが、住み替え希望の段階では現在の住まいの処遇まで具体的に検討していないのではないかと推測する。

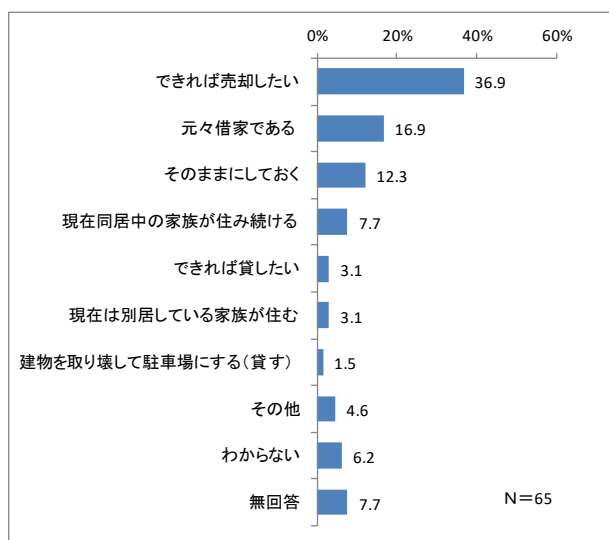
まちなかへの居住意向



今後希望する居住形態



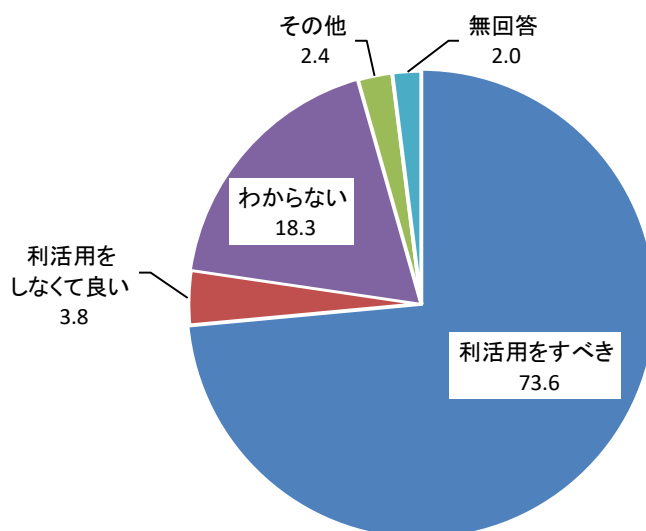
住み替え希望者の現在の住まいの処遇



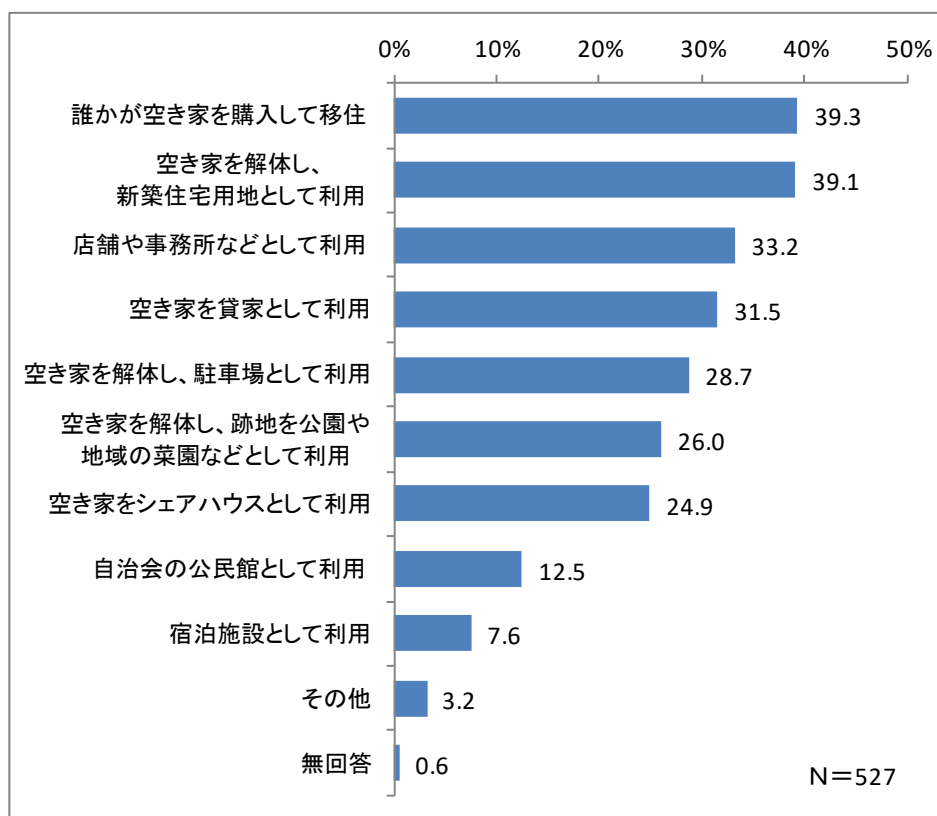
v) 空き家の利活用

空き家については、「利活用をすべき」との回答が7割を超えている。利活用の方法については、「誰かが空き家を購入して移住」が39.3%、「空き家を解体し、新築住宅用地として利用」が39.1%と、住宅としての利活用の継続を望む声が約4割と強いようである。一方で、店舗や事務所、解体して駐車場、公園等への転用を望む回答も多くなっている。

空き家の利活用について



空き家の利活用の方法（複数回答）



〔３〕前計画に掲げた事業の成果と課題

（１）前計画の概要

高岡市では、平成 12 年度から概ね 10 年間を計画期間として、旧計画を策定し、中心市街地活性化に取り組んできた。

平成 18 年の中心市街地活性化法の改正を受け、旧計画では十分な成果が挙げなかった、観光地や商店街の回遊性の向上やまちなか居住の誘発、空き店舗の開業、公共交通の利便性向上など計画内容を見直し、高岡開町以来 400 年の歴史・文化資産と現代的な都市機能に満たされた居心地の良さと賑わいが調和よく織合わさった高岡の地域特性を生かしたまちづくりに取り組むため、平成 19 年 11 月及び平成 24 年 3 月に、計画の国の認定を受け、中心市街地活性化の施策推進に積極的に取り組んできた。

その後、平成 29 年 3 月に新たに計画の認定を受け、「光り輝くまちなかの創生～400 年の資産を守り、育み、繋ぐ～」を目指して各事業を実施し、高岡にしかない歴史・文化資産の魅力を高めるとともに、中心商店街の魅力向上を図り、中心市街地の賑わい創出、交流人口の拡大を図っているところである。

計画期間は平成 29 年 4 月から令和 4 年 3 月の 5 年間とし、計画最終年次における目標達成項目として以下の 2 つを設定した。

【目標 1】交流人口の拡大

数値目標＝主要観光施設における観光入込客数：528,000 人

（当初比較 81,000 人増）

数値目標＝中心商店街（6 地点）における平日・休日の歩行者・自転車

通行量の平均値：17,670 人（当初比較 1,000 人増）

【目標 2】まちなか居住と生活サービス・事業創出機能の充実

数値目標＝中心市街地における居住人口の社会増減数：600 人増

（当初比較 120 人増/年間のペース）

数値目標＝中心市街地・観光地周辺における新規開業店舗数：50 件

（当初比較 10 件/年間のペース）

（２）事業の進捗状況

計画において掲げた 92 事業のうち、22 事業が完了、69 事業が実施中で、未実施の事業は 1 事業となっており、事業進捗率は 98.9%である（令和 3 年 10 月現在）。

未実施となっている事業の要因について、「まちなか第 2 S O H O オフィス整備事業」については、前期計画時から構想を描いてきたが、既存の S O H O 支援オフィスに長期間空室が発生しており、新たな需要があっても当該施設及び周辺の有休施設を斡旋することにより対応が可能と判断し、事業着手を見送ったところである。

前計画における事業の実施状況（令和３年１０月現在）

No.	事業名	事業期間 (年度)	進捗状況
1	高岡駅前東地区整備事業	H26～	実施中
2	誘導標識設置等事業	H30～	実施中
3	高岡駅前東自転車駐車場整備事業	H22～H29	完了
4	まちなか防災モデル事業(博労地区)	H26～	実施中
5	都市計画道路高岡駅佐加野線整備事業	H27～	実施中
6	金屋鋳物師町交流館整備事業	H29～	実施中
7	瑞龍寺保存修理事業	H24～R2	完了
8	金屋町重要伝統的建造物群保存地区保存修理事業	H25～	実施中
9	前田利長墓所保存修理事業	H24～	実施中
10	山町筋重要伝統的建造物群保存地区保存修理事業	H13～	実施中
11	高岡御車山保存修理事業	H17～	実施中
12	高岡城跡保存整備事業	H29～	実施中
13	地籍調査事業	H21～	実施中
14	観光施設・設備等維持管理事業	従前より	実施中
15	シルバーショップ運営事業	H26～R1	完了
16	高岡子育て支援センター運営事業	H23～	実施中
17	ウイング・ウイング高岡運営事業	H16～	実施中
18	高岡市鋳物資料館運営事業	H19～	実施中
19	重要文化財菅野家住宅運営事業	H10～	実施中
20	高岡市土蔵造りのまち資料館運営事業	H14～	実施中
21	高岡御車山会館運営事業	H27～	実施中
22	高岡駅前地下街公共スペース運営事業	H26～	実施中
23	富山県高岡看護専門学校運営事業	H29～	実施中
24	勤労者福祉サービスセンター移転・運営事業	H29～R1	完了
25	まちなか住宅取得支援事業	H19～H30	完了
26	まちなか耐震住宅リフォーム支援事業	H21～H30	完了
27	まちなかエコ・バリアフリーリフォーム支援事業	H26～H30	完了
28	移住促進のための空き家改修支援事業	H29～	実施中
29	地域ぐるみ空き家対策モデル地区支援事業	H29	完了
30	空家等対策計画に基づく事業	H29～	実施中
31	中心商店街拠点開発事業(末広西地区)	H26～H29	完了
32	まちなか共同住宅建設促進事業	H19～H30	完了
33	まちなか優良賃貸住宅補助事業	H19～H30	完了
34	池の端景観形成重点地区建物修景等助成事業	H21～	実施中
35	坂下町通り景観づくり住民協定地区修景等助成事業	H22～	実施中
36	第一種大規模小売店舗立地法特例区域の設定	H23～	実施中

37	観光地における開業支援事業	H23～	実施中
38	たかまちプロムナード事業	H24～	実施中
39	大学連携による伝統・文化再生事業	H19～	実施中
40	工芸都市高岡クラフト展開催事業	S61～	実施中
41	高岡クラフト市場街開催事業	H24～	実施中
42	ミラレ金屋町開催事業(旧金屋町楽市開催事業)	H20～	実施中
43	瑞龍寺ライトアップ事業	H12～	実施中
44	芸文ギャラリー運営事業	H18～	実施中
45	まちなかギャラリー事業	H18～H30	完了
46	中心商店街活性化センター「わろんが」運営事業	H18～	実施中
47	中心市街地における開業支援事業	H20～	実施中
48	高岡御車山祭	従前より	実施中
49	「高岡御車山」臨時山倉設置事業	H19～	実施中
50	中心市街地における季節ごとの大型イベント開催事業	従前より	実施中
51	中心商店街活性化イベント開催事業	従前より	実施中
52	文化遺産活用イベント開催事業	従前より	実施中
53	シルバーサロン坂下小路運営事業	H13～R1	完了
54	まちなか情報発信事業	H14～	実施中
55	コロッケのまちづくり事業	H16～	実施中
56	個別商店街の活性化事業	H11～	実施中
57	中心市街地における既存店舗リニューアル支援事業	H20～	実施中
58	朝市・夕市の開催	H18～	実施中
59	元気たかおか未来会議の開催(「高岡ねがいみち駅伝」の開催)	H19～	実施中
60	御旅屋賑わい創出事業	H22～	実施中
61	リトルウイング賑わい創出事業	H26～	実施中
62	高岡駅周辺にぎわい創出事業	H26～	実施中
63	各種ゼミ・研修会等の開催	H25～	実施中
64	たかまちおでかけウォーク事業	H28～H30	完了
65	中心市街地におけるオフィス開設支援事業	H20～	実施中
66	まちなか第2SOHO 支援オフィス整備事業		未実施
67	日本遺産魅力発信推進事業	H27～	実施中
68	歴史的資産を活用した町家再生事業	H28～	実施中
69	金屋町定住体験施設整備事業	H28～H29	完了
70	高岡万葉遊楽宴事業	H24～H29	完了
71	まちなか活き・粋スポット推進事業	H26～R2	完了
72	旧赤レンガの銀行活用事業	H29～	実施中
73	若者チャレンジ応援事業	H25～R2	完了
74	TR@P事業	H23～H29	実施中
75	食のブランド化推進事業	H23～	実施中

76	まちづくり資金支援事業	H27～	実施中
77	「近世高岡の文化遺産を愛する会」の活動	H18～	実施中
78	フィルムコミッション事業	H13～	実施中
79	たかおか観光戦略ネットワーク事業	H17～	実施中
80	コンベンション開催支援事業	H19～	実施中
81	まちの駅ネットワーク事業	H18～	実施中
82	観光バス市営駐車場料金補助事業	H19～H30	完了
83	平成の御車山制作事業	H24～H29	完了
84	呉西観光誘客推進事業	H28～	実施中
85	コミュニティバス事業	H13～H29	完了
86	お祭りシャトルバス事業	H24～	実施中
87	レンタルサイクル事業	H17～	実施中
88	歴史都市高岡周遊観光バス事業	H27～H29	完了
89	リノベーションまちづくり事業	H29～	実施中
90	たかおか暮らし支援事業	R1～	実施中
91	次世代技術拠点施設整備事業	R1～	実施中
92	高岡地域地場産業センター運営事業	R2～	実施中
総事業数 92（うち完了 22 実施中 69 未実施 1）			
※98.9%が、完了あるいは実施中			

（３）主な事業の成果と課題

①「交流人口の拡大」に資する事業

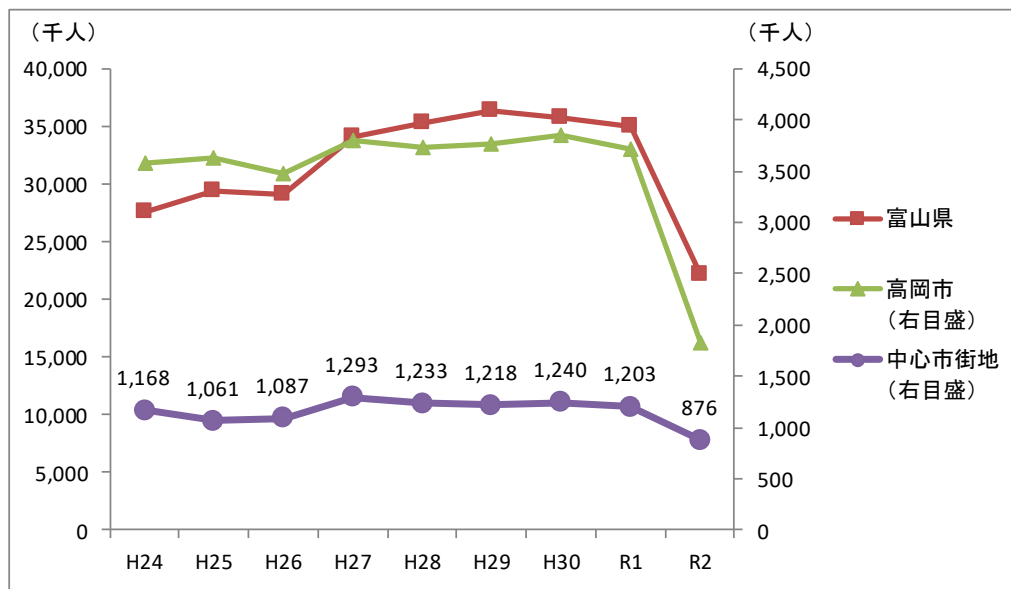
i) 全体評価

・主要観光施設における観光入込客数

平成 27 年 3 月の北陸新幹線開業を契機として、4 月の高岡御車山会館の開館、日本遺産認定、平成 28 年 12 月には「高岡御車山祭の御車山行事」が、全国 33 件の「山・鉾・屋台行事」を構成する行事の 1 つとして、「ユネスコ無形文化遺産」に登録されるなど、本市の歴史資産に対する理解と評価が、平成 29 年には歴史的風致を構成する旧家をリノベーションした山町ヴァレーの開館や、「平成の御車山」が制作され御車山会館へ通年展示されたことも奏功し、山町筋の主要観光施設入込客数が平成 28 年、29 年と増加するなど取り組みの成果が現れてきている。

一方で、予定していた旧赤レンガの銀行活用事業は現在も事業を進めているが、計画期間中に整備を終えて活用を図ることは困難な状況であり、また、金屋鋳物師町交流館整備事業についても、現時点では研修棟のみが供用開始している状況である。このような情勢が、想定していた目標値に達しなかった要因の一つとしてあげられる。

観光入込客数の推移



中心市街地における主要観光施設ごとの観光入込客数

	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年
瑞龍寺	268,388	239,435	198,220	187,723	196,785	78,928
高岡大仏	105,700	90,000	90,000	92,000	92,000	37,800
山						
菅野家	4,299	3,581	4,060	3,153	2,584	0
町						
土蔵造りのまち資料館	5,668	4,901	5,262	3,882	4,018	2,393
筋						
高岡御車山会館	55,614	57,575	58,720	53,537	49,098	19,898
金屋町 (鋳物資料館)	7,814	7,816	7,159	7,117	6,621	2,418
施設計	447,483	403,308	363,421	347,412	351,106	141,437

また、令和 2 年から爆発的に感染が拡大した新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、令和 2 年の観光入込客数 141,437 人は、基準年である平成 27 年 447,000 人の約 32%、目標年の令和 3 年 528,000 人の約 27%にまで減少した。

市民アンケートにおいても、伝統・歴史・文化に対する街並み、景観は評価しつつも、新型コロナウイルス感染症の影響もあってか観光客が増えていると実感は薄いと評価されている。

・中心商店街・観光地周辺（6 地点）における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値

平成 29 年度は 18,229 人/日（平日・休日平均）、平成 30 年度は 17,517 人/日（平日・休日平均）と、目標値 17,670 人/日を達成できる水準で推移していたものの、令和元年度の百貨店撤退の影響を受け、以降は百貨店直近の御旅屋通り地点の通行量が大きく減少していることに加えて、令和 2 年初頭からの新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、移動・外出の自粛、イベント縮小・中止が続いたことなどから、交通結節点でもある高岡駅前地点を筆頭に、通行量の減少が顕著である。

中心商店街（6地点）における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値の推移

地点	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	増減率
高岡駅前（人工デッキ）	8,210	9,001	8,264	8,885	5,844	▲28.8%
末広町（東）	1,094	1,117	1,130	779	626	▲42.8%
末広町（西）	1,337	1,388	1,204	1,192	924	▲30.9%
御旅屋通り	2,397	4,850	3,936	1,011	883	▲63.2%
大仏前	2,359	1,228	2,351	2,114	1,431	▲39.3%
山町筋（木舟町）	514	648	633	446	442	▲13.9%
6 地点合計	15,909	18,229	17,517	14,425	10,149	▲36.2%

※増減率は令和 2 年度と平成 28 年度を比較したもの

中心市街地における各種イベントは、中心市街地の賑わいに寄与するものとして重要である一方、イベント開催の有無や当日の天候等によって通行量は大きく左右されることから、歩行者・自転車通行量の維持・増加のためには、恒常的に人が訪れる仕組みづくりが欠かせない。

市民アンケートにおいても、働く場、魅力的な新しい店舗、商品、サービスが提供されていないという評価であり、近隣の大規模小売店舗の相次ぐ出店や、百貨店の撤退の影響も重なって、多くの市民にとって訪れる目的が見失われつつある。

ii) 主な事業の実施成果

・主要観光施設における観光入込客数に寄与する事業

ア. 山町筋（菅野家住宅、土蔵造りのまち資料館、高岡御車山会館）及び金屋町（鋳物資料館）への観光客の増加

①. 歴史的資産を活用した町家再生事業（事業主体名：末広開発(株)、(株)町衆高岡）

事業完了時期	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	土蔵造りの町家が建ち並ぶ「山町筋重要伝統的建造物群保存地区」において空き店舗となっている伝統的建造物を、まちづくり会社がリノベーションし、新たな活用を図り、観光地としての魅力向上を目指す。
事業効果及び進捗状況	平成 29 年 4 月に空き店舗をリノベーションした「山町ヴァレー」開館後、山町筋の観光者数は順調に推移した。菅野家、土蔵づくりのまち資料館の最寄りであることから、観光入込客数に寄与したと考えられる。

②. 旧赤レンガの銀行活用事業（事業主体名：高岡市、民間事業者）

事業完了時期	平成 29 年度～【実施中】
事業概要	大正 3 年に建築された本格的な洋風建築物である赤レンガの銀行建物を、銀行本店の高岡駅前東地区への移転後に新たな観光・交流施設等として活用を図ることにより、近隣施設を訪れる観光客の増加を見込む。

事業効果及び進捗状況	新銀行への移転後、赤レンガ棟以外の建物を解体撤去した上で、赤レンガ銀行建物を本市に無償譲渡されるが、平成 29 年度に着工した新銀行本店の建設工事に遅れが生じたことにより、その後の解体撤去工事及び建物の譲渡が令和 2 年度となった。計画期間中における利活用を図ることは困難なことから、計画期間中での事業効果は見込めない。
------------	--

③. 金屋鋳物師町交流館整備事業（事業主体名：高岡市）

事業完了時期	平成 29 年度～【実施中】 [認定基本計画：平成 29 年度～平成 30 年度]
事業概要	高岡鋳物発祥の地である金屋町の特性を活かし、地区住民及び来訪者の交流に資する施設を整備し活用を図ることにより、近隣施設を訪れる観光客の増加を見込む。
事業効果及び進捗状況	平成 27 年度に整備計画策定後、用地を取得し、設計作業を平成 30 年度に完了し、研修棟が令和 2 年 9 月より供用を開始した。全棟完工が令和 3 年度以降になることから計画期間中での事業効果は見込めない。

イ. 高岡御車山会館への観光客の増加

①. 高岡御車山会館運営事業（事業主体名：高岡市）

事業完了時期	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	重要有形・無形民俗文化財の高岡御車山を通年展示する高岡御車山会館を活用し中心市街地の活性化を図り、魅力ある観光の街づくりを推進する。
事業効果及び進捗状況	高岡御車山会館は、平成の御車山の常設展示などの新たなコンテンツを加え、新型コロナウイルス感染症拡大前まで年間 50,000 人を超える来館者数であったことから、山町筋の主要観光施設の入込客数に寄与したと考えられる。

②. 平成の御車山制作事業（事業主体名：高岡市）

事業完了時期	平成 24 年度～平成 29 年度【済】
事業概要	高岡で守られてきたものづくりの伝統と技術を次世代へ継承し、また、広く全国へ発信するため、高岡に息づく金工・漆工等の伝統工芸技術の粋を集めた平成の御車山を制作する。
事業効果及び進捗状況	平成 24 年度から実施してきた本事業が 29 年度で完成し、平成の御車山は高岡御車山会館で平成 30 年 5 月より通年展示している。高岡御車山会館の来館者数の増加に寄与したと考えられる。

ウ. インバウンド需要の増加及び広域観光の推進による観光客増加

①. 日本遺産魅力発信推進事業（事業主体名：高岡市日本遺産推進協議会）

事業完了時期	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	平成 27 年に国の認定を受けた日本遺産のストーリーの魅力を国内外に発信し、中心市街地に多くある歴史・文化資産の魅力を広く周知する。

事業効果及び進捗状況	認定市で開催された日本遺産サミットへ出展しPRを実施、また本市の認定の資産の魅力を更に磨き上げることで、観光客の増加に寄与すると考えられる。
------------	--

②. 呉西観光誘客推進事業（事業主体名：高岡市、射水市、氷見市、砺波市、小矢部市、南砺市）

事業完了時期	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	平成 28 年 10 月に策定した「とやま呉西圏域都市圏ビジョン」に基づき、圏域の多彩な観光資源（自然・文化・産業遺産等）の連携によるマーケティング・ブランディングにより、圏域の観光エリアのPR強化・充実に努める。
事業効果及び進捗状況	高岡市だけでなく、とやま呉西圏域（富山県西部6市）で旅行商品やSNSのアピールなど、プロモーションを実施することで、観光客の増加に寄与すると考えられる。

・中心商店街・観光地周辺（6地点）における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値に寄与する事業

ア. 富山県高岡看護専門学校運営事業による効果

①. 富山県高岡看護専門学校運営事業（事業主体名：（学）未来高岡）

事業完了時期	平成 29 年度～【実施中】
事業概要	富山県西部地域の中核的な看護師養成機関として、高岡市内にある3つの看護専門学校を統合した新たな看護専門学校を高岡駅前東地区に新設し運営を行う。
事業効果及び進捗状況	平成 29 年 4 月から新たな看護専門学校が開校し、300 名を超える学生が通学し始めた。高岡駅前（人工デッキ）では、開校前年度に比べ平日では約 1,100 人の通行量が増加しており、本事業が寄与していると考えられる。

イ. 高岡駅前東地区整備事業による効果

①. 高岡駅前東地区整備事業（事業主体名：高岡市、高岡駅前東地区まちづくり協議会、関係権利者）

事業完了時期	平成 26 年度～【実施中】
事業概要	地区内の機能更新を図るため、地権者と共に実現化に向けた計画の策定や民間事業の開発支援（業務施設、マンション等）、周辺環境の整備（道路、広場等）を実施する。
事業効果及び進捗状況	令和元年 11 月に銀行本店が移転オープンし、高岡駅北口交流広場も合わせて供用を開始した。令和 2 年 3 月には、民間資本による 373 室のホテルが新たに開業し、令和 2 年 11 月には隣接する 130 邸のマンションが供用され、入居が進んでいることから、歩行者・自転車通行量の増加に寄与すると考えられる。

ウ. 中心商店街拠点開発事業（末広西地区）による効果

①. 中心商店街拠点開発事業（末広西地区）（事業主体名：末広西地区セブンラック協議会）

事業完了時期	平成 26 年度～平成 30 年度【済】
事業概要	高岡駅前の中心商店街のメイン通りに面した街区の一面を、商業施設及び住居の複合施設に再編するとともに、来街者の利便性に寄与する公益施設を整備することでまちなかの賑わい創出及びまちなか居住の支援を図る。
事業効果及び進捗状況	本事業において、98 邸のファミリータイプのマンション、商業施設、公益施設からなる複合ビルについては、平成 31 年 3 月末より、マンション部分の入居を開始しており、商業施設部分については、テナントの準備が整い次第、供用開始予定であることから、歩行者・自転車通行量の増加に寄与すると考えられる。

エ. 歴史的資産を活用した町家再生事業による効果

①. 歴史的資産を活用した町家再生事業（事業主体名：末広開発㈱、㈱町衆高岡）
【再掲】

事業完了時期	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	土蔵造りの町家が建ち並ぶ「山町筋重要伝統的建造物群保存地区」において空き店舗となっている伝統的建造物を、まちづくり会社がリノベーションし、新たな活用を図り、観光地としての魅力向上を目指す。
事業効果及び進捗状況	平成 29 年 4 月に空き店舗をリノベーションした「山町ヴァレー」開館し、平成 30 年度に全 8 区画のテナントスペースが全てオープンしたことから、山町筋の歩行者・自転車通行量の増加に寄与すると考えられる。

iii) 計画策定に向けた課題と展望

・主要観光施設における観光入込客数に寄与する事業

前計画までに観光地の魅力向上に繋がる核となる施設の整備は概ね完了した。「日本遺産」の認定や「ユネスコ無形文化遺産」の登録などに加え、中心市街地に移転開業した「高岡地域地場産業センター（Z I B A）」により、本市の特色でもある「中心市街地の歴史文化資産」が更に厚みを増したところである。来訪満足度を高める施設が充実し、今後、北陸新幹線の敦賀開業を令和 5 年度末に控えていることから、更なる旅行商品、周遊プログラムの充実などが期待できる。

北陸新幹線開業効果も一定程度の目途がたち、天災の影響も少ない年であること、新型コロナウイルス感染症の拡大前であること等を考慮し、平成 30 年の数値を基準値とし事業効果を測る指標とする。

②「まちなか居住と生活サービス・事業創出機能の充実」に資する事業

i) 全体評価

・中心市街地における居住人口の社会増減数

現行計画策定当初の予測を上回るペースで人口の減少が発生し、令和2年度末時点において社会増減数は目標値を大幅に下回る状況で推移している。

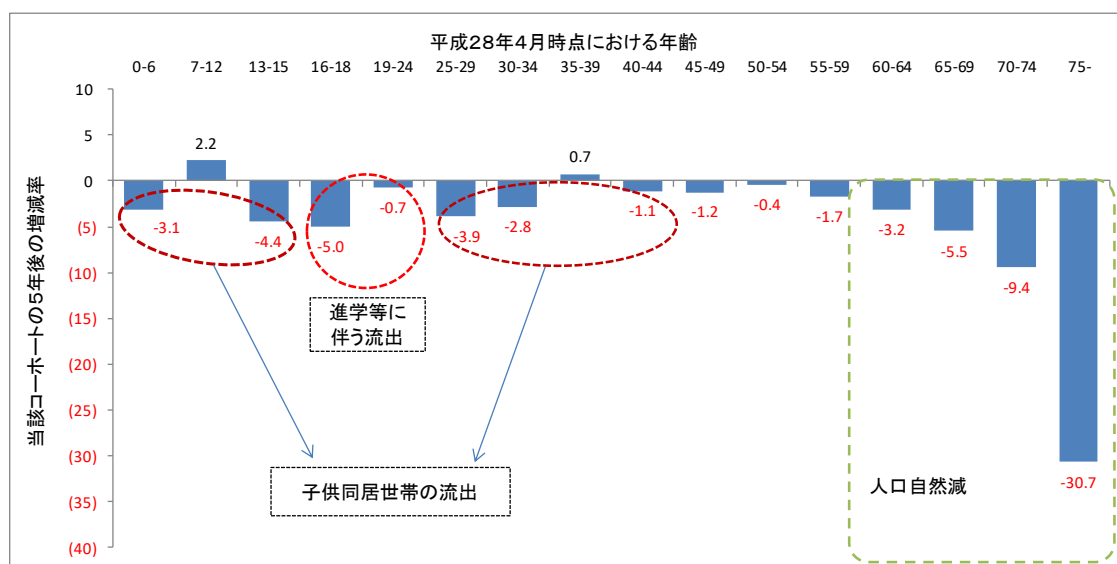
市の中心部は高齢化率、人口減少率ともに市内の他地域より高い状況にある一方、平成31年3月、令和2年11月と2棟の分譲マンションが完成し入居を開始したことから、社会減少の割合は一時的には抑えることができた。しかしながら、依然として、中心市街地エリアからの転出割合は大きく、社会増には至っていない。

高岡市および中心市街地における人口の推移

	高岡市全体	中心市街地
平成28年度末居住人口	173,425人	14,908人
令和2年度末居住人口	168,390人	13,918人
平成28年度末→令和2年度末人口減少率	▲2.9%	▲6.6%

中心市街地が含まれる6地区における年齢階層による増減率を見ると、中心市街地では高齢者の人口割合が全市平均よりも高く、自然減が発生しやすい状況が挙げられる。また、全市的な傾向ではあるが高校、大学進学に伴い県外への進学で減少がみられ、また20代後半から30代前半にかけて子どもが生まれ手狭になり郊外へ家を建て転居することによって減少する傾向にあると推測される。

中心市街地が含まれる6地区における年齢階層による増減率



※平成28年4月と令和2年4月を比較したコーホートによる増減率

中心市街地の居住人口が減少する一方で、市民アンケート調査結果、まちなか居住者アンケート調査結果では、「中心市街地に住宅が増えた」、現在住んでいる7割近くが「引き続きまちなかに住みたい」と評価している。一方、日用品（スーパー、ドラッグストアなど）は域外のロードサイドに集中していることから、利便

性が高い地域での居住に流れやすく、中心市街地への転入が進みにくい状況となっている。

・ 中心市街地・観光地周辺における新規開業店舗数

新規開業店舗数については、目標値 50 件（5 年累計）を達成した。この要因は、中心市街地における開業支援事業により、飲食店やオフィスを中心に空き店舗への出店が図られ、中心商店街の魅力向上、賑わい創出へと繋がっている。また、観光地においては山町ヴァレーに新店舗が複数開業したことが目標の達成に寄与している。

一方、市民アンケートの調査では、「魅力的な店舗、特徴のある店舗がある」「新しい店、商品、サービスが生み出されている」との評価が低く、店主の高齢化などによる閉店、住居化などにより店舗数は減少しており、市民の意識の中では中心市街地における賑わいを感じることができないといった評価もあることから、新規開業店舗数の増加によるプラスの効果が限定的となっていると考えられる。

ii) 主な事業の実施成果

・ 中心市街地における居住人口の社会増減数に寄与する事業

ア. まちなか居住推進総合対策事業による増加

①. まちなか住宅取得支援事業（事業主体名：高岡市）

事業完了時期	平成 19 年度～平成 30 年度【済】 [認定基本計画：平成 19 年度～]
事業概要	高岡市が指定した「まちなかの区域」において、家屋の新築や、建売・中古住宅の取得、分譲マンション・中古分譲マンションの取得、隣地の取得を行う者に対し、費用の一部を支援する。
事業効果及び進捗状況	まちなか住宅取得支援事業は平成 30 年度では 34 件の利用実績があり、まちなかにおける居住人口の増加に寄与した。

②. たかおか暮らし支援事業（事業主体名：高岡市）

事業完了時期	令和元年度～【実施中】
事業概要	高岡市が指定した「まちなかの区域」及び「居住誘導区域」において、家屋の新築や、建売・中古住宅の取得、分譲マンション・中古分譲マンションの取得、隣地の取得(まちなか区域に限る)を行う者に対し、費用の一部を支援する。
事業効果及び進捗状況	令和元年度から新たに実施したたかおか暮らし支援事業では、令和 2 年度までに 33 件の利用実績があり、まちなかにおける居住人口の増加に寄与している。平成 30 年度まで実施していたまちなか居住推進総合対策事業及びたかおか暮らし支援事業により、居住人口の増加に寄与した。

イ. まちなか共同住宅建設促進事業による増加

①. まちなか共同住宅建設促進事業（事業主体名：高岡市、民間事業者）

事業完了時期	平成 19 年度～平成 30 年度【済】 [認定基本計画：平成 19 年度～]
事業概要	高岡市が指定した「まちなかの区域」において、分譲又は賃貸による共同住宅を建築する者に対し、費用の一部を支援する。
事業効果及び進捗状況	まちなか共同住宅建設促進事業は平成 19 年度から平成 30 年度まで事業を実施し、まちなかにおける居住人口の増加に寄与した。

ウ. 中心商店街拠点開発事業（末広西地区）による増加

①. 中心商店街拠点開発事業（末広西地区）（事業主体名：末広西地区セブンラック協議会）【再掲】

事業完了時期	平成 26 年度～平成 30 年度【済】
事業概要	高岡駅前の中心商店街のメイン通りに面した街区の一面を、商業施設及び住居の複合施設に再編するとともに、来街者の利便性に寄与する公益施設を整備することでまちなかの賑わい創出及びまちなか居住の支援を図る。
事業効果及び進捗状況	本事業において、98 邸のファミリータイプのマンション、商業施設、公益施設からなる複合ビルは、平成 31 年 3 月末よりマンション部分の入居を開始しており、居住人口の増加に寄与した。

・ 中心市街地・観光地周辺における新規開業店舗数に寄与する事業

ア. 開業支援事業による効果

①. 中心市街地における開業支援事業（事業主体名：高岡市）

事業完了時期	平成 20 年度～令和 3 年度【実施中】
事業概要	中心市街地の魅力向上に寄与する店舗の進出を促進するため、空き店舗を活用した開業者及び空き店舗の所有者に対し、支援を行う。
事業効果及び進捗状況	中心市街地における開業支援事業は平成 20 年度から事業を実施し、令和 2 年度には本事業を活用し 6 店舗が新規開業しており、新規開業店舗数の増加に寄与している。本事業により、中心市街地における新規開業店舗数を 5 年間で 25 件を見込んでいるところ 4 年間で 21 件開業した。

②. 観光地における開業支援事業（事業主体名：高岡市）

事業完了時期	平成 20 年度～令和 3 年度【実施中】
事業概要	市内の主要観光地に、主に観光客を対象とした飲食・物販を中心とした店舗の進出を促進するため、空き店舗における開業者及び空き店舗の所有者に対し、支援を行う。
事業効果及び進捗状況	観光地における開業支援事業は平成 20 年度から事業を実施し、令和元年度には本事業を活用し 3 店舗が新規開業しており、新規開業店舗数の増加に寄与している。本事業により、観光地における新規開業店舗数を 5 年間で 10 件を見込んでいるところ 4 年間で 12 件開業した。

③. 中心市街地におけるオフィス開設支援事業（事業主体名：高岡市）

事業完了時期	平成 20 年度～令和 3 年度【実施中】
事業概要	中心市街地へのオフィス立地を誘導するため、一定要件を満たした新設オフィスに対し、支援を行う。
事業効果及び進捗状況	中心市街地におけるオフィス開設支援事業は平成 20 年度から事業を実施し、令和元年度では本事業を活用し 4 つのオフィスが新規開設しており、新規開業店舗数の増加に寄与している。本事業により、中心市街地におけるオフィス開設数を 5 年間で 5 件を見込んでいるところ 4 年間で 11 件開業した。

イ. 歴史的資産を活用した町家再生事業による効果

①. 歴史的資産を活用した町家再生事業（事業主体名：末広開発㈱、㈱町衆高岡）【再掲】

事業完了時期	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	土蔵造りの町家が建ち並ぶ「山町筋重要伝統的建造物群保存地区」において空き店舗となっている伝統的建造物を、まちづくり会社がリノベーションし、新たな活用を図る。
事業効果及び進捗状況	平成 29 年 4 月に空き店舗をリノベーションした「山町ヴァレー」が開館し、町家内に 8 区画のテナントスペースを整備した。平成 29 年度中に 5 つのテナントが入居し、平成 30 年度には残り 3 区画にテナントが入居し、全面オープンした。

ウ. 中心商店街拠点開発事業（末広西地区）による増加

①. 中心商店街拠点開発事業（末広西地区）（事業主体名：末広西地区セブンラック協議会）【再掲】

事業完了時期	平成 26 年度～平成 30 年度【済】
事業概要	高岡駅前の中心商店街のメイン通りに面した街区の一面を、商業施設及び住居の複合施設に再編するとともに、来街者の利便性に寄与する公益施設を整備することでまちなかの賑わい創出及びまちなか居住の支援を図る。
事業効果及び進捗状況	本事業では、98 邸のファミリータイプのマンション、商業施設、公益施設からなる複合ビルの整備が平成 30 年度末に完了したが、商業テナントスペースについては、テナントの準備が整い次第、供用開始する予定である。

iii) 計画策定に向けた課題と展望

・ 中心市街地における居住人口の社会増減数

中心市街地における居住人口の増加が、歩行者通行量の増加や、商業をはじめとした様々な経済活動に好影響を及ぼすことから、居住者を増やすことは賑わい創出のために不可欠の要素である。したがって、まちなか居住の推進は従前の計画に引き続いて取り組んでいく必要がある。

中心市街地では、高岡駅南側の下関地区を除いて高齢者の人口割合が 3 割以上と

なっており、人口の自然減が発生しやすい環境にあるが、朝市・夕市の開催や日常生活に必要な店舗誘致を通じて生活利便の充実を図り、高齢者の域外流出を防止するとともに、若年層、子育て世代の居住に適した魅力ある商業空間の創出や、子育てしやすい環境の整備を引き続き実施していく必要がある。

平成 31 年 3 月に末広町において 98 邸の分譲マンションが、令和 2 年 11 月には高岡駅前東地区において 130 邸の分譲マンションが供用を開始し、同エリアでは新たな分譲マンション建設も始まるなど、まちなかでの集合住宅建設の動きも活発化している。

一方で、中心市街地では狭隘な土地に古い住宅が密集し、住居と空き家が混在していることに加え、土地の境界、借地権や固定資産税等の問題により、まとまった広さの敷地を確保することが困難なこと等から、空き家についての利活用を含めた総合的な対策に取り組む必要がある。

・ 中心市街地・観光地周辺における新規開業店舗数

中心商店街では、開業支援事業を活用した飲食店や物販店の開業があり、空き店舗件数は減少し、開業支援事業を中心にした取組みに一定の成果があったところである。しかしながら、店主の高齢化などによる閉店、住居化などにより商店数は減少しており、市民の意識の中では中心市街地における賑わいを感じることができないといった評価もある。

一方、観光地周辺では増加する観光客を目当てに、個性的な店舗の新規開業も相次いでおり、中心市街地への新たな誘客要因として機能し始めていることから、中心商店街においても、観光客を始めとした新たな顧客を呼び込み、回遊性の向上と滞在時間の延長につながるような魅力的な店舗を増やしていく必要がある。

〔４〕現状分析と課題の整理

（１）現状分析

モータリゼーションの進展による都市の郊外化に加え、近年の人口減少や電子商取引の急速な拡大により、地域経済の構造は大きく変化し、中心商店街の「商業機能」についての役割は相対的に低下してきている。これらの環境の変化や現状等を踏まえたうえで、新計画に結び付けていく必要がある。

中心市街地の現状認識を整理すると以下のとおりである。

分析項目	内 容
1. 高岡市及び中心市街地の位置づけ	①北陸新幹線が開業し、東京とは最速 2 時間 19 分で結ばれたが、高岡駅から南へ約 1.5 キロ離れた分離駅として新高岡駅が開業した。 ②道路網の整備が進んでいることに加え、富山市や金沢市をはじめ周辺都市との距離は概ね 50 キロ圏内と移動が容易であり、日常の生活圏内として捉えられる。 ③国道や能越自動車道など幹線道路が市内を縦横に走り、中心市街地内にある高岡駅を中心にあいの風とやま鉄道、ＪＲ、万葉線、バス等の公共交通が集中する呉西の交通結節点である。 ④車社会の進展に伴い、ロードサイド店や郊外の大型商業施設・スーパーが進出し、呉西地域における高岡市の中心市街地が有する中心性は低下傾向にある。 ⑤全市において、本市産業の中核をなす製造業を含む全産業の事業所数が減少傾向にあり、特に中心市街地では減少が著しい。
2. 歴史文化資産の活用	①県内唯一の国宝・瑞龍寺や「ユネスコ無形文化遺産」への登録もされた「高岡御車山祭」など、文化財保護法に基づく指定文化財等の歴史・文化資産の観光資源が数多く集積しており、文化財群として「日本遺産」も受けている。 ②市民意識調査では、中心市街地の現状として歴史・文化資産を生かしたまちづくりに対し高い評価を得ている。 ③市民意識調査では、個々の観光地としての価値が高まっている一方、観光拠点相互の連携による回遊性向上の仕掛け、滞在時間の延長と消費行動を促す手段（例：飲食店、土産店の立寄り場所の集積）が十分ではなく、歴史・文化が多数集積する強みが十分に発揮されていない。
3. 市街地の整備改善	①高岡市の中心市街地は、昭和 30 年代から 50 年代にかけての大規模な都市基盤整備により、現在の中心市街地が形作られていった。その後、平成以降に、域内で 4 つの再開発事業により拠点整備が行われた。 ②平成 18 年から高岡駅周辺整備事業が実施され、高岡駅の乗り換え利便性の改善、南北市街地の一体化が進められた。 ③昭和の時代に整備された防火建築帯等の施設は老朽化し、その

	後、景気停滞等の問題等から、まちの新陳代謝が進まない状況であったが、近年高岡駅周辺においては、民間主導による再開発の動きが活発化している。
4. 都市福利施設の向上	①中心市街地には、行政サービス機関、医療機関のほか、高岡古城公園や生涯学習センター、子育て支援センターなどの拠点性の高い市民の憩い・学習の場が整っており、中心市街地において一定水準のサービスが提供されている。
5. まちなか居住の推進	①現在、まちなかに居住している方の多くは、まちなかでの生活を住みよいと感じており、できればまちなかで住み続けたいと考えている。 ②中心市街地の空き地、空き家は市内でも高い水準にあり、それらが点在し、まとまった土地を確保できないため、宅地開発が進まず、人口減少も市内有数の状況にある。 ③一方、高岡駅周辺においては分譲マンションの建設の動きが活発化してきている。
6. 高齢化社会への対応	①中心市街地では、全市平均に比べて高齢化が進展しており、今後も全市を上回るペースでの人口減少が予想され、活力の低下が懸念される。
7. 中心商店街の活性化	①商店数、年間販売額など、商業活動を示すすべての指標において中心市街地の占める割合は減少している。 ②事業所数・従業者数も減少しており、昼間人口の減少に繋がっている。 ③中心商店街は、買回り品を中心に高岡市全域を週末商圈としていたが、そのウェートは年々ますます低下している。 ④高岡駅周辺や観光地では歩行者通行量は横ばいから微増傾向であったものの、中心商店街では減少しており、回遊性も低い。 ⑤市民意識調査では、中心市街地における商業環境、商業景観が悪化しているとする指摘が特に多く、商業機能の改善、回復が求められている。
8. まちづくり会社の役割	①まちづくり会社を担う末広開発(株)は、主にイベントを中心とした商店街の賑わいづくりに寄与している。主催事業と協賛事業をあわせると、ほぼ毎月、中心市街地における大小さまざまなイベントに関与している。 ②その他、ミニ拠点の管理運営など、まちの顔づくりに向けた活動をはじめ、空き店舗における入居希望者と大家とのマッチング、ホームページ等による情報発信、各種共同販促事業の開催など、幅広い活動を行っている。 ③このような活動実績により、まちづくり会社に対する中心商店街の信頼は厚く、また、新たに空き店舗となっていた歴史的町家の再生事業に取り組み、まちづくり会社が主体となった多面

	的なまちづくり活動を一層推進することが必要である。 ④近年、若い世代を中心に e スポーツに注目が集まっており、県内唯一の常設施設を、いち早く整備し、これまで中心市街地に縁のなかった層を取り入れようとしている。
9. 公共交通機関の利便性の増進	①公共交通の利用者は減少傾向にあるが、高岡駅周辺は現在も 1 日あたり 10,000 人を超える人の利用があり、日常の交通・交流結節拠点として重要な役割を担っている。 ②高岡駅については、新幹線の利用も含め広域交通の拠点として重要な役割を担っている。

(2) 課題の整理

①商業核の消失（百貨店撤退）による集客力の低下

令和元年 8 月に中心市街地の中核に位置する複合商業施設「御旅屋セリオ」から百貨店が撤退した影響は大きく、御旅屋セリオの位置する御旅屋通りの歩行者・自転車通行量も減少した。空きフロアを活用して多様な交流へと繋げるべく、「セリオタウン構想」を掲げ、商工会議所や地元経済界も一緒になってテナント誘致に努め、子育て支援施設や行政機能の一部移転等の取組みを進めているが、集客力の回復には至っていない。

②北陸新幹線開業効果の減少

平成 27 年 3 月の北陸新幹線開業を契機に、新高岡駅を拠点として、県西部から飛騨・能登地域まで広域的に連携し、観光誘客の取組みを推進してきており、新高岡駅の拠点性や認知度は高まってきている。

加えて、高岡御車山祭のユネスコ無形文化遺産登録や市内で 2 つのストーリーが日本遺産に認定を受けるなど、集客の誘因となり得る観光魅力が高まってきたものの、広域周遊観光における高岡の魅力を十分に伝えきれていない。

③生活サービス機能の充実（「ハレ」から「ケ」への転換）

これまで中心商店街は、買回り品を中心に高岡市全域を週末商圈として機能していたが、郊外の大型ショッピングモールの拡張、ロードサイドのスーパー、ドラッグストアの競合、電子商取引の急速な拡大、そして百貨店の撤退など、ここ数年で中心市街地を取り巻く商業環境に大きな変化がみられ、訪れる目的も変化している。一方で、近年は高岡駅周辺にマンション建設が進み、居住者が急速に増えたことから、生鮮三品などの日用品を求める声は大きく、生活サービス機能の充実が求められる。

④遊休資産を活用した新たな価値の創造

社会の高齢化と並行し、中心商店街の購買層、求める商品、販売する店主も共に高齢化している。商売を続けることが難しくなった商店街の店舗兼住宅はシャッターを閉めて居住化が進んでいる。

一方、郊外の駐車場付きの高い物件ではなく、中心市街地の安価な空き物件を居抜

きで活用した新規開業や、遊休店舗をリノベーションした開業が増えており、飲食店を中心に、若い世代の方が新たな価値を見出し始めている。

〔５〕計画の基本方針

新計画では、前計画までに取り組んできた成果を更に高め、現状分析と課題を踏まえ、中長期的な都市機能の集約も視野に、中心市街地におけるライフラインや都市インフラを活かしたコンパクトなまちづくりと賑わい創出を図っていく。観光や芸術文化、生涯学習、買い物、飲食、催事など多様な方が多様な目的を持って訪れていただけるまちを目指すとともに「住む・働く」を積極的に誘致しながら、これまでの「モノやサービスを得る場所」から「生活に必要な機能を満たす場所」への転換とその機能の充実を目指すことを目標に掲げ、以下のとおり目指す都市像及び基本方針を定める。

（１）目指す都市像

これまでは、新幹線の開業を見据えた、行政主導のハード整備が中心となっていた面があるが、こうした戦略的な投資が、民間のホテルやマンション建設等に結びついてきており、「官から民へ」の好循環が生まれつつある。マンション建設も進行中で、まだ「道半ば」であり、こうした状況を好機として、更なる民間投資を誘発し、効果を最大化できるよう、中心市街地の活性化を図っていく必要がある。

高岡駅周辺を核とする都市機能の集約を念頭に、道路や鉄路による物理的、心理的な分断・境界をなくし、一体的かつ効率的なまちづくりを図るため、「南北一体化」を中長期的な目標に掲げるとともに、市民みんなで語り合い、共に考え、共に行動しながら、多様な人が多様な目的で集い、楽しむ中心市街地づくりに取り組んでいくため、市民が共感できる都市像を次のとおり定める。

【目指す都市像】人が輝き、人で輝く、人が主体の賑わいづくり
～まちなかりスタート！南北一体化による交流シンカを目指して～

※「シンカ」は、深化、進化、新化など複数の意味を持たせることから、カタカナでの表記とする

（２）基本方針

①多様な目的で人が行き交い、交流するまち

中心市街地には高岡市を代表する数多くの歴史的、文化的資産が保存、継承されている。近年においても、金屋町の重要伝統的建造物群保存地区への選定（平成 24 年）、高岡城跡（高岡古城公園）の国史跡指定（平成 27 年）、「加賀前田家ゆかりの町民文化が花咲くまち高岡一人、技、心一」の日本遺産の認定（同年）、高岡御車山祭のユネスコ無形文化遺産登録（平成 28 年）と、対外的な評価は十分である。また、高岡地域地場産業センターが中心市街地へ移転（令和 2 年）したことから、この豊かな歴史的価値に加え、ものづくり体験などコト消費も備えた観光施策、地域振興策として展開していくことが重要である。

中心市街地には、都市機能や福利施設、観光や芸術文化、生涯学習、買い物、飲食、催事など多様な方が多様な目的を持って訪れていただき、訪れた方々で多様な交流が図られるまちを目指していく。

②新たなチャレンジとライフスタイルを楽しむまち

道路網の充実と車社会の進展、ライフスタイルの変化等に伴い、商業機能における中心市街地の中心性は相対的に低下し続けている一方で、住民の居住満足度は高く、郊外部や周辺市街地に比べ都市インフラが充実していることは、今なお中心市街地に一定のアドバンテージを有しているものと考ええる。

また、少子高齢化や人口減少により、税収は低下している一方、市街地の拡大や多様な住民ニーズにより行政コストは増大しており、既存インフラが高度に集積する中心市街地を活用することは、コスト縮減と効率的でコンパクトなまちづくりを進めていくために必要なことであると考ええる。

一方で、資本力に優れ、高い水準の品物を安価に提供できる郊外の大型店や、駐車場を備えたロードサイド店と同じ路線で対抗するのではなく、顧客へのきめ細やかなサービスや、中心商店街ならではの体験・サービス、安価な賃貸物件を活用した新たなチャレンジを試みるなど、商業環境においても、独自性の高いまちづくりや郊外店との差別化を図る取り組みが必要となっている。

近年の駅前民間開発とも連動しながら「住む・働く」を積極的に誘致し、これまでの「モノやサービスを得る場所」から「生活に必要な機能を満たす場所」への転換と、新たなチャレンジにも寛容で、居住者にも住みよい、楽しめるまちを目指していく。

現状分析・課題から導き出される基本方針の体系

《 現 状 分 析 》

《 課 題 》

《 基 本 方 針 》

